

文部科学省「社会システム改革と研究開発の一体的推進」  
戦略的環境リーダー育成拠点形成

MEXT "Integrated Promotion of Social Reform and Research and Development"  
Building Training Bases of Strategic Environmental Leaders Program

# 地域からESDを推進する女性環境リーダー

Woman Leaders Promoting ESD Based on Local Community

2009 - 2013年度 活動報告書

Final Report : 2009.04 - 2014.03



神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

Graduate School of Human Sciences, Kobe College

2014年3月

March, 2014

## はじめに



学長・プログラム統括責任者  
飯 謙

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科は、2009年度より、「社会システム改革と研究開発の一体的推進」のお支えをいただき、「地域からESDを推進する女性環境リーダー」という表題のもと、戦略的環境リーダー育成拠点形成プログラムを開始しました。2013年度を閉じようとしているいま、よい成果を上げて、無事に締め括りのときを迎えようとしております。この間に、文部科学省、独立行政法人科学技術振興機構、西宮市、NPO法人 こども環境活動支援協会（LEAF）、提携大学および本学のスタッフ、そしてプログラムに参加された学生諸姉、多くの皆さまが貴い力を注いでくださいました。すべての皆さまに、衷心より御礼を申し上げます。

神戸女学院は1875年に米国より来日した2人の女性宣教師によって創立されました。おふたりは若い女性の学ぶ場を願う母親たちの気持ちを汲み、東奔西走して多様な人の思いを結び合わせ、人種や国籍、地域を越えた共同作業として——文字通りの意味でのコラボレーション（労苦を共にする）の業として、この学院を創立されました。以来140年にわたり、本学院は「愛神愛隣」の標語のもと、教育活動を続けてまいりましたが、その根底には、常に、他者に対するリスペクトがありました。

翻って、複雑で高度な技術文明社会を構築してきた現代は、豊かな人間性を備えた個々人を単なる歯車にしかねない、危うい現実をかかえています。しかしこのたびの企図を通して、改めて、人間、環境、さらにわれわれを取り巻く世界へのリスペクトを視野に納めるESDが、利害を超えてその現実を転換させる可能性をもち、かつそれが本学院建学に際しての祈りにも通じる精神を内包していることを強く思わされました。これからも、わたしたちの大切な課題をいっそう深めるよう努めてまいりたく存じます。引き続き、皆さまのご協力をお願いいたします。

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 教授

西田 昌司



2009年、当時の寺嶋研究科長から、「科学技術振興調整費の戦略的環境リーダー育成拠点形成事業（当時）に応募しようと思っているのだけれど」と相談を受けたときには、これほど大きな事業になるとは予想もせず、気楽にやってみましょうとお返事をしました。それから足かけ6年近くにわたる「社会システム改革と研究開発の一体的推進」の補助を受けて実施したESDプログラムは、寺嶋先生から引き継いだ私にとっても、人間科学研究科にとっても、神戸女学院大学にとっても、まさに黒船であり、これまで経験したことのないさまざまな問題との闘いでした。しかし、私の後任の遠藤研究科長をはじめ、教員、職員、学生、留学生の皆さんが一体となってそれぞれの問題の解決に当たり、プログラムの最終年となる本年には、より骨太で、世界に開かれた大学、大学院としての体制を作り上げることができました。どのように留学生の募集や選抜をしたらよいのだろう、本当にアジアから学生が来てくれるのか、経済的なサポートや生活面でのサポートはどうしたものか。また、全てのコース授業を英語で一貫させる経験もありませんでしたし、ましてや実践的なインターンシップを留学生対象に実施できるかどうか、まだ道筋が決まっていませんでした。しかし、これまで教職員が築き上げてきたアジアの大学の先生方とのネットワークや双方向ビデオ会議システムの導入、地元西宮市の自治体やNPO法人、なかでも「NPO法人 こども環境活動支援協会（LEAF）」の皆さまの惜しみない協力を得ることによって、これらの課題を克服し、持続可能な協働教育システムとして根付かせることができたと思います。今後の方向性や発展性を考える時にはさらに多くの困難が待ち受けているかと思いますが、この経験を生かし、より良いプログラムを作り上げる基礎体力を付けることができたのではないかと自負しています。改めてこのプログラムの立ち上げと実施にかかわっていただいた皆さまに感謝すると共に、修了生の皆さんの今後のご活躍をお祈りします。

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 教授  
環境リーダー育成プログラム委員会 委員長

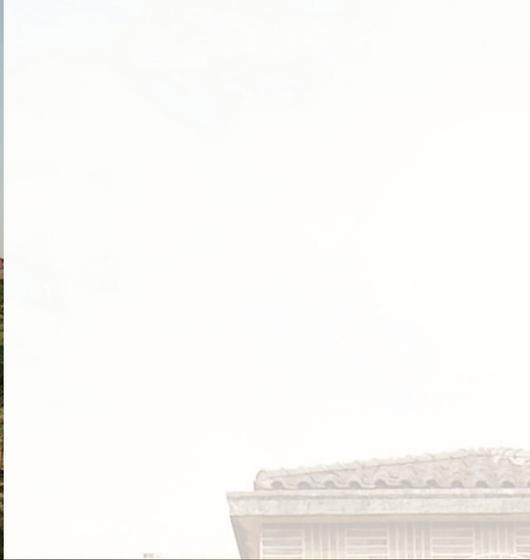
遠藤 知二



文部科学省からの助成を受けて2009年から「地域からESDを推進する女性環境リーダー」が始まりました。この事業は、本学では「ESDプログラム」という呼称で通っていますが、その説明のためにESDのあとに必ずEducation for Sustainable Developmentと括弧書きをしていました。ESDという概念がまだまだあまり浸透していなかったことの表れです。この5年間、準備期間を除けば4年間プログラムを続けてきて、ESDという言葉は、少なくとも本学の中では大いに認知されたと思います。ESDのあとの括弧書きもそれほど必要ではなくなったように思います。

ただし、ESDが実際に何なのか、ESDプログラムがどんなことをしているのかと言えば、関係者以外にはなかなかイメージがつかめない部分も多いかもしれません。本報告書では、このプログラムを通じて、われわれがどのような教育を目指したのか、そのためにどのような体制を構築したのか、そして実際にどのような教育をしてきたのか、それは学生と教員にどのように受けとめられているか、このプログラムをどのようにしていけばよいのかなどについて、概観できるように構成されています。

ESDをどう捉えるかは人によって違いはあるかもしれませんが、そのスタイルには変化があるかもしれませんが、ESDが目指しているものは不要になることはありません。この報告書は、われわれのESDプログラムの記録であり、今後のESDについて考えるための1つの資料として役に立てば幸いです。



# C o n t e n t s

はじめに..... 01

## 1 プログラム概要

- 1-1 プログラム概要..... 06
- 1-2 ESDプログラムの運営体制の構築..... 07
- 1-3 ESDプログラムの実施計画..... 09
- 1-4 プログラムの仕組み..... 10
- 1-5 カリキュラムの概要..... 11
- 1-6 留学生への支援措置..... 13

## 2 実施報告

- 2-1 アジアの環境とその保全(I・II)..... 16
- 2-2 日本の環境とその保全(I・II)..... 21
- 2-3 インターンシップ(I・II・III)..... 26
- 2-4 フィールドワーク..... 37
- 2-5 アウトリーチ活動..... 39

## 3 招聘教員からの報告

- 3-1 The ESD program of Kobe College, Japan/Teresita Ramos Perez..... 46
- 3-2 Education for Sustainable Development/Velma I. Grover..... 47

## 4 学生からの報告

- 4-1 ESD留学生(修了生)..... 50
- 4-2 日本人院生(修了生)..... 53
- 4-3 ESD留学生(在学生)..... 54
- 4-4 数字で見る学生の動向..... 55

## 5 評価と課題

- 5-1 アジアの環境とその保全(I・II)..... 58
- 5-2 日本の環境とその保全(I・II)..... 59
- 5-3 インターンシップ(I・II・III)..... 60
- 5-4 フィールドワーク..... 61
- 5-5 今後の展望..... 62

## 6 資料

- 6-1 各種案内、新聞記事..... 64
- 6-2 留学生による発表..... 67
- 6-3 関係者一覧..... 68

あとがき..... 69



神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

# 1

## プログラム概要



KOBE COLLEGE GRADUATE SCHOOL

この取組み「地域からESDを推進する女性環境リーダー」（以下、ESDプログラムという）は、2009～2013年度（平成21～平成25年度）の5年間にわたり文部科学省「社会システム改革と研究開発の一体的推進」の助成を受け、飯 謙学長を統括責任者として神戸女学院大学大学院 人間科学研究科が実施したプログラムである。

### 研究科の教育理念とESDプログラムの教育理念

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科は、博士前期課程に臨床心理学・人間行動学・健康科学・環境科学の4つの専門分野を擁し、大学院生は自らが選択した専門分野において教育課程の履修を行い、指導教員のもとで修士論文の研究に取り組んでいる。人間科学研究科は、博士前期課程定員10名、博士後期課程定員2名の小規模な研究科であるが、地球環境の保全や人間の心と体の健康の維持について、自然科学と人文科学の学際的な立場で教育・研究を行っており、修了者は大学教員、環境・医療関連企業、学校関係などで活躍している。

本ESDプログラムは、人間科学研究科の学生（特に健康科学・環境科学分野）を対象とするが、たとえば本学文学研究科や音楽研究科の学生が聴講することもできる。また、日本人大学院生と同時に、神戸女学院大学奨学金制度を伴った本学のMOU締結校からの留学生の履修も可能となっており、日本人大学院生と海外諸国の大学院生とがともに学び、研究することのできるプログラムとなっている。

### 前プログラムとの関連

本学人間科学研究科では、2007～2009年度（平成19～平成21年度）の3ヵ年、文部科学省大学院教育改革支援プログラムの補助を受けて「環境と健康のために行動する女性科学者養成」の取組みを実施した。本取組みの目的は、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の地域リーダーとなりうるような女性科学者を養成することであり、専門知識を生かしながら地域社会のなかで自立的に問題を解決することのできる女性研究者を養成することにあった。今回のESDプログラムは、この取組みの後継プログラムとして位置づけられている。

### ESDプログラムの目的

ESDプログラムは、アジア・アフリカ地域の大学院で環境科学、環境社会学に関連する分野を学ぶ修士課程の女子大学院生を5年間で合計20名受入れ、それぞれの地域が抱えている環境問題にさまざまな視点からアプローチできる環境リーダーを育成する1年間のコースとして開設・運営するものである。本学で行われてきた環境科学や健康科学分野の教育・研究、国際化推進事業の成果に基づき、インターネットビデオ会議システムを活用したアジアの連携大学教員によるライブ講義、本学教員による学際的リレー講義と文学研究科大学院生による通訳支援、地域でESDを進めるNPO法人でのインターンシップを柱とする教育により、企業の広報部門、県市の行政官、NPO 法人スタッフなど、地域からESDを推進できる人材「環境リーダー」を育成することを目指している。

### ESDプログラムの特徴

本ESDプログラムの特徴は、次のような6点に集約される。

- (1) 女子教育の体制が必ずしも十分に整っていないアジア・アフリカ諸国の学生を受入れ、環境問題を解決するためには、地域に根ざした活動が重要である点を理解させること
- (2) 学際的な立場から多彩な分野で活躍する本学教員を中心とした講師陣によるリレー講義を展開すること
- (3) 語学力が問題となるときは、文学研究科 通訳・翻訳コースのOJTとしての同時通訳を活用し、講師や日本人学生、留学生とのディスカッションを活発化すること
- (4) ESDを推進する西宮市のNPO法人 こども環境活動支援協会（LEAF）や人間科学研究科と連携する企業等へのインターンシップを通じて、市民レベルでの環境リーダーの役割を実体験すること
- (5) インターネットビデオ会議システムを利用して、アジアの連携大学の教員の講義をライブで受講させること
- (6) 若手の女性特任研究員（博士号取得者）1名を採用し、このプログラムの実施を通じてESDを基盤とした環境学の専門家として独り立ちさせること

# 1-2 ESDプログラムの運営体制の構築

本プログラムは、学長のリーダーシップのもとで、人間科学研究科を中心に実施する取組みである。実施に際しては、学内の他研究科や事務組織など全学的な支援と学外の諸機関、団体、企業の協力も得ながら、次のような包括的な計画体制でプログラムの運営を開始した(図1、図2)。

プログラムの実施・運営に先立ち、「大学院委員会」を通じて、「地域からESDを推進する女性環境リーダー育成」に対して全学的な協力体制を確立する。大学院委員会は、各研究科長、研究科選出委員から構成され、学長を議長とする組織であり、本学は小規模大学で研究科間の意思疎通が密接になされているため、大学院委員会の関与により全学的なプログラムの推進が可能になる。

本プログラムの運営・実施にあたっては、人間科学研究科の関係教員5名、外部協力団体である西宮市 環境局 環境緑化部 環境学習都市推進課担当者、NPO法人 こども環境活動支援協会事務局長の計7名で「環境リーダー育成プログラム委員会」をつくり、本プログラムの計画・運営に携わる。また、「ESD推進室(構想段階では環境リーダー育成プロジェクト室)」を設置し、特任研究員1名、研究補助員2名を配置し、プロジェクトを運営・実施する。さらに、インターンシップの実施に際しては、西宮市 環境局 環境緑化部 環境学習都市推進課、NPO法人 こども環境活動支援協会の協力のもと、地元企業の参画も得ながら実施する。

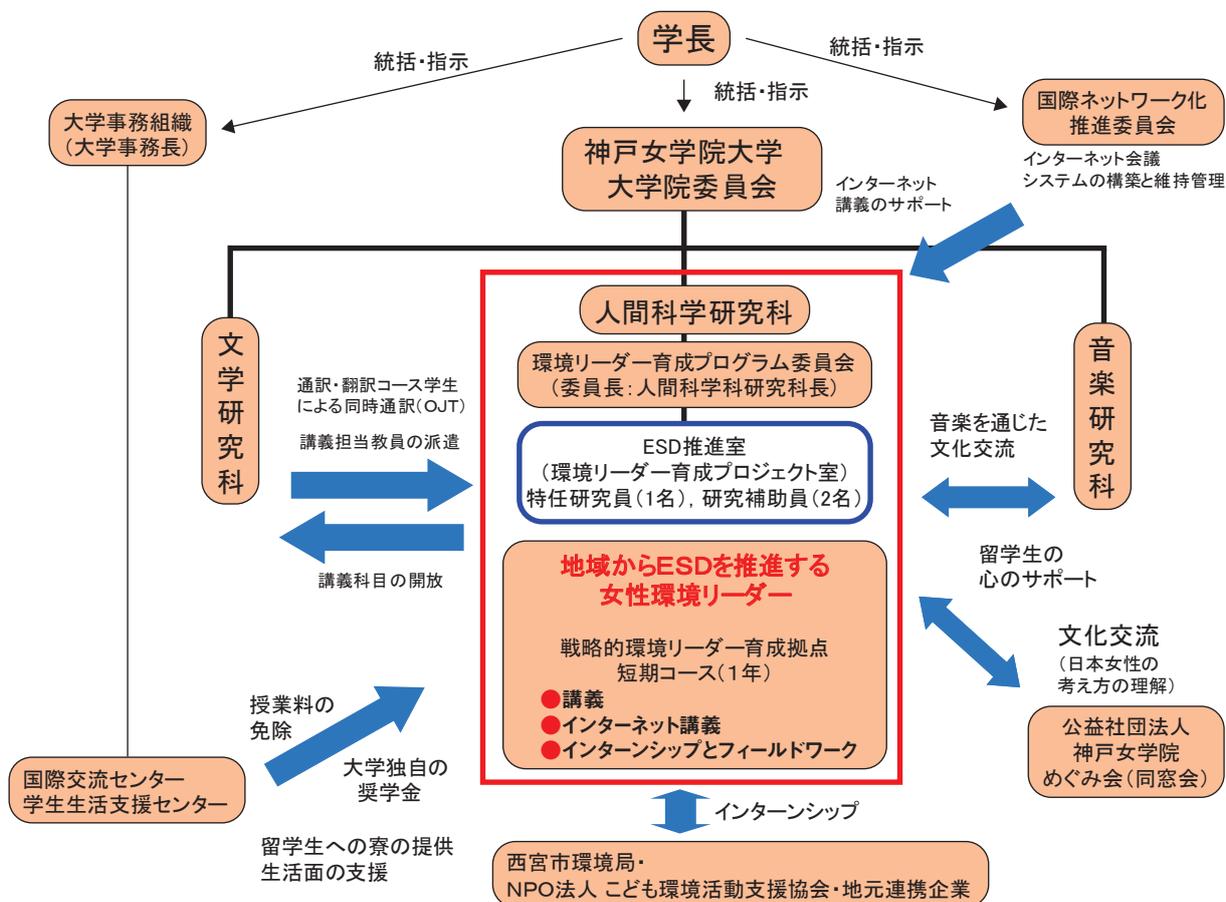


図1 「地域からESDを推進する女性環境リーダー」実施体制

本プログラム内にて多角的に利用するインターネットビデオ会議システムは「国際ネットワーク化推進委員会」で管理・運営し、学部教育を含めた全学的、応用的な利用も当初より念頭に置く。従来より交流のあったアジア諸国の大学、女子大学とMOUを結び、教員の相互訪問を通じて連携を強化し、アジア諸国の大学教員によるインターネットビデオ会議システムを用いたライブ講義を可能にする。そのためシステム構築は国際ネットワーク化推進委員会が担当するが、時差の関係からアジア諸国に限定して推進する。これにより、神戸女学院大学の教室において、アジア諸国の大学教員の英語による講義を従来通りの講義時間内に受講することができる。講義の内容はアーカイブに記録し、他大学への貸し出しも行う。

事務組織では大学事務長のもと人間科学研究科および人間科学部、国際交流センター、学生生活支援センターが留学生の生活面を担当し、小規模であるという本学の特徴を最大限に生かし、きめ細かな留学生のケアができる体制を整える。音楽研究科とは音楽を通じた文化交流を、本学の同窓会組織でもある公益社団法人 神戸女学院めぐみ会(同窓会)とはさまざまな文化交流を行い、留学生の精神面でのサポートを行う。

さらに、留学生は神戸女学院大学奨学金制度を利用し、本学在籍中には奨学金を受けることができる。文部科学省、独立行政法人 科学

技術振興機構を含めさまざまな組織からのファイナンスサポートを受け、大学として履修生を援助する。

本プログラムは、文部科学省「社会システム改革と研究開発の一体的推進」の助成期間終了後も継続できるように、現在の学内組織構成を最大限利用した運営体制を整える。インターネットビデオ会議システムは今回の戦略的環境リーダー育成プログラム以外にも、文学研究科 通訳・翻訳コースや文学部および文学研究科での留学生受入れ・授業支援等にも利用するため、全学的設備として維持管理する。

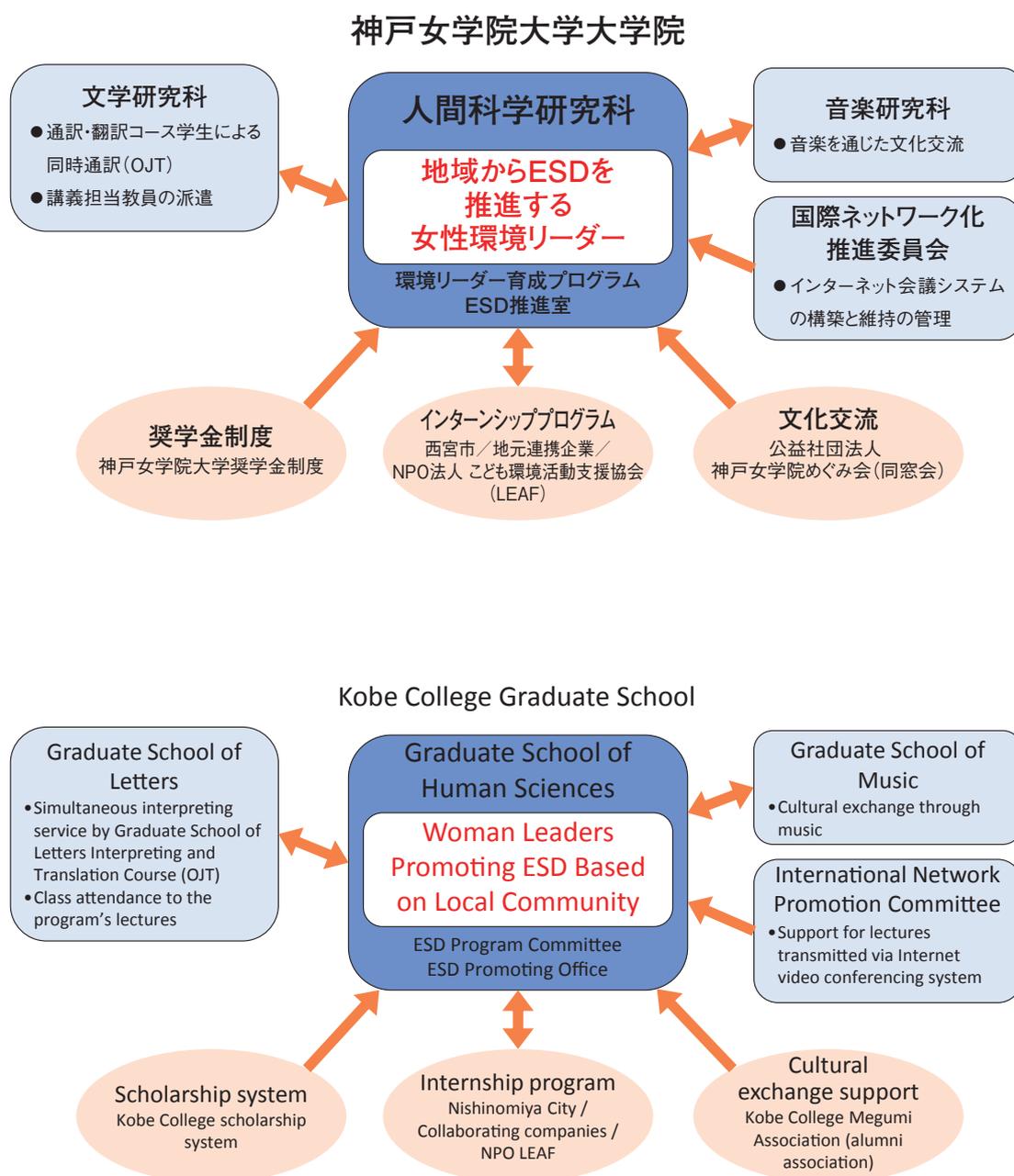


図2 「地域からESDを推進する女性環境リーダー」の支援体制

## -3 ESDプログラムの実施計画

本プログラムの各年度における実施計画は、以下の通りである。

### 2009年度

次年度からの留学生受入れに向けて、受入れ体制、カリキュラムの整備を行うとともに、留学生の選考を行う。

### 2010年度

10月からのプログラム開始に向けて、インターンシップ先との最終調整、カリキュラムの最終確認を行う。9月には留学生5名を受入れ、日本人大学院生とともにプログラムを開始する。また、次年度へのアジアからの留学生、日本人大学院生のリクルートのため、現地、およびインターネットビデオ会議での説明会を開催する。

### 2011年度

新たな留学生5名を受入れ、プログラムを継続する。前年度の経験を踏まえてプログラムを評価し、改善点を検証する。また、前年度修了生の動向を調査して、修了後のフォローアップ体制を構築する。

### 2012年度

新たな留学生5名を受入れ、プログラムを継続する。プログラムの継続的な検証を行うとともに、特に、2年間10名の修了生の動向から、フォローアップ体制の評価を行い、必要であれば改善を行う。

### 2013年度

新たな留学生5名を受入れ、プログラムを継続する。文部科学省による助成期間が終了するため、5年間の取組みの検証を行い、次年度以降のプログラムの継続に向けて、リソースの獲得と配分について検討する。

## -4 プログラムの仕組み

### 教育目標

本プログラムを通じて、学生は次のような能力を身につけることを教育目標としている。

- (1) 地域に根ざしたESDを実践するスキルを修得すること
- (2) 日本で起こった環境問題とアジア諸国で現在起こっている環境問題を理解すること
- (3) 自然環境の保護運動、ESD、環境教育の進め方を理解すること
- (4) これらを通じて、自国での環境問題解決のためのESD実践プランを立てられること

地域に根ざしたESDを実践するスキルとはどのようなものかをさらに具体的に述べると、(a) それぞれの地域に固有の課題を見つけるスキル、(b) さまざまな視点を考慮しながら問題を解決するスキル、(c) 多様な人々と協働できるスキル、(d) 地域でリーダー的役割を果たすスキルである。

本プログラムで育成された環境リーダーは、企業の広報、県市の行政官、NPO法人スタッフなどとして、環境問題とESDに対する幅広い専門知識を持ち、地域からESDを推進できる。また、日本人学生も、アジア諸国を見据えた幅広い視点をもつ女性環境リーダーとして実社会で活躍できる。

### 留学生の受入れ

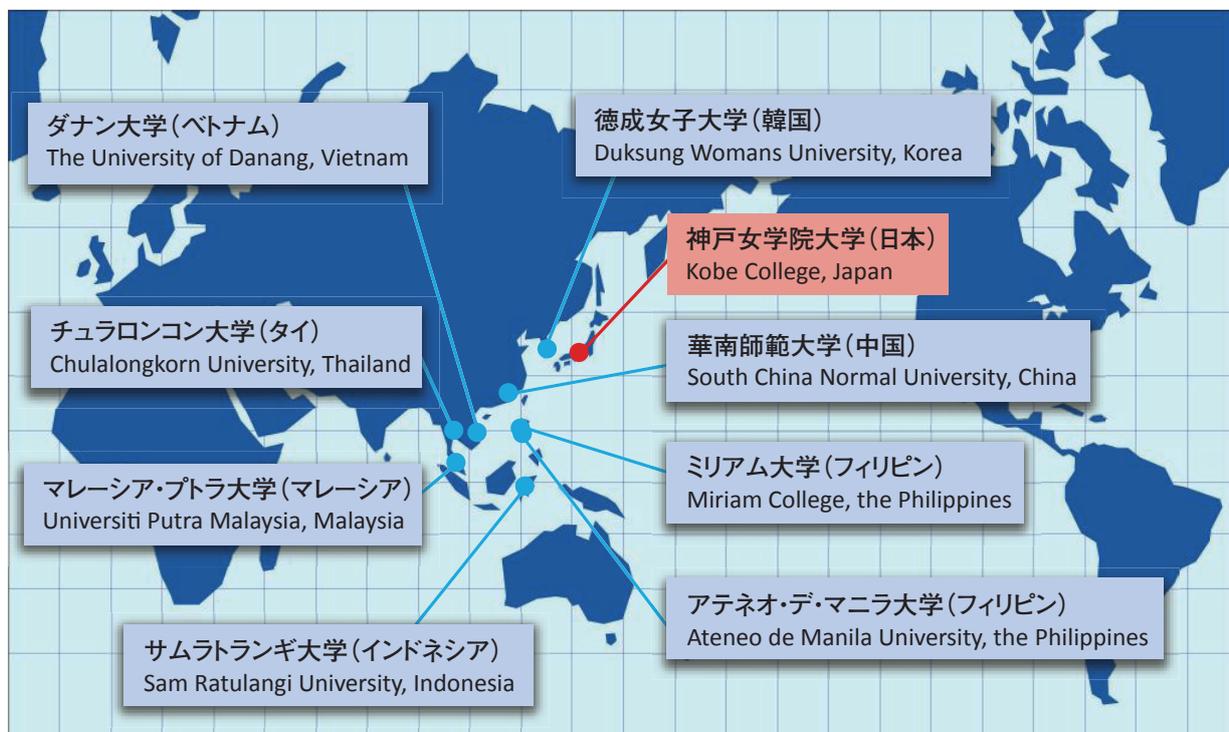


図3 ESDプログラムにかかわるMOU締結校

現在、東南アジア圏8つの大学とMOUを締結している（図3）。本プログラムの募集対象となる留学生は、MOU締結校に修士課程として在籍し、ESDや環境問題に関する分野を専攻している女子大学院生である。応募に際しては、それぞれの所属大学からの推薦を必要とする。

学生のリクルートは11月から行う。翌年2月までの間に、本学教員が書類審査とインターネットビデオ会議システムを通じての面接審査を行い、3～4月頃に受入れ学生を決定する。毎年5名の留学生、5名の日本人大学院生の受入れを予定している。

#### 留学生受入れまでの流れ

8月	現地説明会
11月	募集要項公表
1月	書類審査
1～2月	ビデオ面接審査
3月	合格者原案作成（プログラム委員会）
4月	合格者決定（研究科委員会）
5月	特別外国人留学生認定（大学院委員会）
10月	来日、カリキュラム開始

### 日本人学生の受入れ

日本人大学院生は、原則として本研究科の人間行動学分野、環境科学分野、健康科学分野の博士前期課程学生から受入れを行う。大学院進学時に指導教員と相談の上、1年間の本プログラムへの参加時期、参加方法を選択する。

日本人学生の参加に関しては、柔軟に履修体制を運用することで、本プログラムに参画する日本人学生の数を多くするとともに、従来の研究者志向の博士前期課程とは別に、コースワークを中心とした新たな履修体系のモデルを確立する。

## -5 カリキュラムの概要

本プログラムでは、先に述べたように、座学と実地体験を通して各々の地域社会においてESDを推進するために必要なスキルの習得を目標としている。また、環境問題やESDの現状について日本と東南アジア諸国とを比較することで、それらに対してより理解を深める。本プログラムのカリキュラムは10月に始まり、翌年9月までの1年間に履修期間とする。

## 1年間のコース内容

本プログラムの修了には全20単位の修得を必要としている。

後期	10月	オリエンテーション	
	11月	講義 (テーマ: 環境汚染と汚染管理)	
	12月	アジアの環境とその保全 I	2単位
	1月	日本の環境とその保全 I インターンシップ I	2単位 4単位
	2月		
	3月	フィールドワーク	2単位
前期	4月	講義 (テーマ: 自然環境と環境教育)	
	5月	アジアの環境とその保全 II	2単位
	6月	日本の環境とその保全 II	2単位
	7月	インターンシップ II	4単位
	8月		
	9月	インターンシップ III	2単位
			全20単位

Autumn semester	October	Orientation of the course and the life in Japan	
	November	Lectures (Theme: Environmental Pollution and Pollution Control)	
	December	Environmental issues and ESD progress in Asia I	2 credits
	January	Environmental issues and ESD progress in Japan I Internship I	2 credits 4 credits
	February		
	March	Fieldwork	2 credits
Spring semester	April	Lectures (Theme: Natural Environment and Environmental Education)	
	May	Environmental issues and ESD progress in Asia II	2 credits
	June	Environmental issues and ESD progress in Japan II	2 credits
	July	Internship II	4 credits
	August		
	September	Internship III	2 credits
			Total 20 credits

図4 ESDプログラムのカリキュラム概要

### アジアの環境とその保全 I / Environmental issues and ESD progress in Asia I

アジア諸国が現在抱える環境問題の現状、それに対する政策、ESDの取組みなどについて学び、学生各人が直面する状況でのESD活動のための、幅広い実践力を身につける。本科目では特に、各国において現在問題となっている環境問題について、その現状と解決に結びつく取組みに関する内容を取上げる。インターネットビデオ会議システムを利用し、海外の講師陣が本プログラム履習生に対して直接講義を行う。

### アジアの環境とその保全 II / Environmental issues and ESD progress in Asia II

アジア諸国が現在抱える環境問題の現状、それに対する政策、ESDの取組みなどについて学び、学生各人が直面する状況でのESD活動のための、幅広い実践力を身につける。本科目では特に、各国におけるESDの現状とその取組み内容の詳細を取上げる。インターネットビデオ会議システムを利用し、海外の講師陣が本プログラム履習生に対して直接講義を行う。

### 日本の環境とその保全 I / Environmental issues and ESD progress in Japan I

日本が直面し、解決してきたさまざまな「公害」や環境問題を包括的に学び、学生各人が直面する独自の状況におけるESD活動のための、幅広い実践力を身につける。本科目では主に環境科学、健康科学の分野から、環境問題発生のメカニズムやそれが及ぼす影響、その解決方法などについての理解を深める。学内外の講師陣が、英語での講義を行う。

### 日本の環境とその保全 II / Environmental issues and ESD progress in Japan II

日本が直面し、解決してきたさまざまな「公害」や環境問題を包括的に学び、学生各人が直面する独自の状況におけるESD活動のための、幅広い実践力を身につける。本科目では主に生態学、環境教育、行動科学の分野から、環境問題へのアプローチの方法、一般市民の立場からの環境問題の捉え方などについて理解を深める。学内外の講師陣が、英語での講義を行う。

### インターンシップ I / Internship I

ESDの基本概念を理解する。フィールドとなる西宮市、NPO法人 こども環境活動支援協会の活動を理解し、西宮市におけるフィールド見学や活動のしくみを学習する。NPO法人 こども環境活動支援協会の活動に参加し、NPO法人の役割を理解する。

### インターンシップ II / Internship II

ESDの基本概念を理解する。フィールドとなる西宮市、NPO法人 こども環境活動支援協会の活動を理解し、持続発展教育（ESD）の概念などを組込んだ事業への理解を深める。西宮市の環境学習事業や地域実践に積極的に主体的に参加する。NPO法人 こども環境活動支援協会の活動に主体的に参加し、スタッフとして事業実践を行う。

### インターンシップ III / Internship III

西宮市やNPO法人 こども環境活動支援協会の活動にスタッフとして参加し、実践的に持続発展教育（ESD）の概念を学ぶ。

### フィールドワーク / Fieldwork

日本国内に実習地を設定する。環境保全を通してESDに積極的に取組む現場を訪問し、現地担当者（行政、民間団体、NPO法人、地域住民など）との交流を通してESDの実践を体験することから、各人がESDについての理解を深める。

## -6 留学生への支援措置

本学独自の留学生支援策として、下記のような措置を実施する。

- (1) 特別外国人留学生規程：海外の協定を結ぶ大学から大学院生の学費の一部、もしくは全額免除、また、寮費の一部、又は全額免除する
- (2) 私費外国人留学生授業料減免規程：成績優秀な留学生に対しては授業料の半額もしくは全額免除する
- (3) 大学院外国人留学生特別奨学金規程：アジア及びアフリカ諸国からの正規留学生で学業成績が優秀かつ他の奨学金の支給、貸与を受けていない留学生に(2)の減免規程適用後の授業料の金額の全額又は半額相当額を支給する

これらを利用し、留学生の授業料はほとんどの場合、全額免除となる。

留学生の宿舎は本学で用意し、2012年度からは大学の隣接地にKobe College International Students Houseを設置する。

公益社団法人 神戸女学院めぐみ会では留学生奨学金を、正規学生として本学学部または大学院在学の外国人留学生（若干名）を対象として月額15万円支給する。

留学生の生活面の支援を行うために、国際交流センター、学生生活支援センターの拡充を図る。本事業で新たに採用する研究補助員の1名は環境リーダー育成コースの教務面を担当し、もう1名は国際交流センター、学生生活支援センターとの協力のもとに、留学生の生活支援とNPO法人 こども環境活動支援協会でのインターンシップ支援を担当する。プログラム担当教員には校医も含まれ、健康面のケアを担当する。人間科学研究科には附属の心理相談室もあり、臨床心理学分野の専任教員やスタッフが英語により精神面のケアをする体制も整え、本プログラムの運営・実施における環境を整備する。



神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

2

実施報告



KOBE COLLEGE GRADUATE SCHOOL

## -1 アジアの環境とその保全 (I・II)

後期「アジアの環境とその保全 I」(2単位)

Autumn semester: Environmental issues and ESD progress in Asia I (2 credits)

前期「アジアの環境とその保全 II」(2単位)

Spring semester: Environmental issues and ESD progress in Asia II (2 credits)

担当教員 寺嶋 正明 / 武中 桂

ESDプログラムの座学の1つとして位置づけている本科目は、東南アジア各国の講師陣が講義を担当する。アジア諸国の環境問題の現状、その解決までのプロセス、環境問題に対する民官学それぞれのアプローチなどについてレクチャーを受けた後、講師と履修生とのディスカッションを行い、各々の講義テーマに関する理解を深める。インターネットビデオ会議システムを利用して海外講師による講義を本学講義時間内に講義室にて受講することが可能となっており、受講を経てアジア各国のESDの状況を理解し、またそれを履修生各々の出身国の状況と比較することにより、各国においてESDを牽引できる実践力の養成に結びつける。

## 2010年後期 アジアの環境とその保全 I

(敬称略)

講義日	講義内容	講師名	所属
2010.10.08	Emerging chemicals of environmental concern	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・プトラ大学、マレーシア
2010.10.15	Current pollution status in Malaysia	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・プトラ大学、マレーシア
2010.10.22	Marine Science Institute	Miguel D. Fortes	フィリピン大学、フィリピン
2010.11.05	The Philippines environment — issues and solutions	Benjamin R. de Jesus, Jr.	ビーコン環境管理システム、フィリピン
2010.11.12	The River Quality and the Four Major Rivers Restoration Project in Korea	Wookeun Bae	漢陽大学、韓国
2010.11.19	Food waste management in Korea	Wookeun Bae	漢陽大学、韓国
2010.11.26	An alarming mercury burden to the environment in Talawaan watershed, North Sulawesi Artisanal gold mining activities	Inneke F. M. Rumengan	サムラトランギ大学、インドネシア
2010.12.03	The current major environmental pollution in north Sulawesi due to Artisanal gold mining	Inneke F. M. Rumengan	サムラトランギ大学、インドネシア
2010.12.10	Preservation of environment in Asia “Heavy metal pollution in Taiwan”	Chih-Ching Chien	元智大学、台湾
2010.12.17	Preservation of environment in Asia “Heavy metal pollution in Taiwan” — Remediation	Chih-Ching Chien	元智大学、台湾
2011.01.14	China: Environmental Situation, Preservation and Sustainable Development	Gao Lingbiao	華南師範大学、中国
2011.01.21	Education for Sustainable Development — Our concepts & practice	Gao Lingbiao	華南師範大学、中国

## 2011年前期 アジアの環境とその保全 II

講義日	講義内容	講師名	所属
2011.04.08	Faculty of Design and Architecture, Universiti Putra Malaysia	Murad Abd. Ghani	マレーシア・プトラ大学、マレーシア
2011.04.15	Faculty of Design and Architecture, Universiti Putra Malaysia	Murad Abd. Ghani	マレーシア・プトラ大学、マレーシア
2011.04.22	Presentation by KC undergraduate students “Activities in Community Leader Program”	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2011.05.06	Director of Guangdong Environmental Partnership Program, Institute for Sustainable Communities	Wan Yang	広東省環境パートナーシッププログラム、中国
2011.05.13	Department of Environment, Danang University of Technology	Hoang Hai	ダナン大学、ベトナム
2011.05.20	Department of Environment, Danang University of Technology	Hoang Hai	ダナン大学、ベトナム

講義日	講義内容	講師名	所属
2011.05.27	Education for Sustainable Development in the Philippines Part 1	Angelina P. Galang	ミリアム大学、フィリピン
2011.06.03	Division of EcoSciences, Ewha Womans University	Jae C. Choe	梨花女子大学、韓国
2011.06.10	Division of EcoSciences, Ewha Womans University	Jae C. Choe	梨花女子大学、韓国
2011.06.17	Education for Sustainable Development in the Philippines Part 2	Angelina P. Galang	ミリアム大学、フィリピン
2011.07.01	Discussion	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2011.07.08	Sustainable Development of Water Based Bangkok, Thailand	Suwattana Thadaniti	カセサート大学、タイ
2011.07.15	Pesticides and Agricultural crops in Indonesia	Dantje T. Sembel	サムラトランギ大学、インドネシア
2011.07.22	Learning the Greatness of Mother Nature through Festival, case of Loy Krathong Water Festival in Thailand	Suwattana Thadaniti	カセサート大学、タイ

2011年後期 アジアの環境とその保全 I

講義日	講義内容	講師名	所属
2011.10.07	Emerging chemicals of environmental concern	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・ボトラ大学、マレーシア
2011.10.14	Faculty of Environmental Studies	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・ボトラ大学、マレーシア
2011.11.04	Brominated Flame Retardants in Breast Milk and House Dust: Implications for Human Exposure	Maricar S. Prudente	デ・ラ・サール大学、フィリピン
2011.11.11	The River Quality and the Four Major Rivers Restoration Project in Korea	Wookeun Bae	梨花女子大学、韓国
2011.11.18	Food Waste Management in Korea	Wookeun Bae	梨花女子大学、韓国
2011.11.25	Preservation of environment in Asia “Heavy metal pollution in Taiwan”	Chih-Ching Chien	元智大学、台湾
2011.12.02	Preservation of environment in Asia “Heavy metal pollution in Taiwan” — Remediation	Chih-Ching Chien	元智大学、台湾
2011.12.09	Environmental Situation, Preservation and Sustainable Development	Gao Lingbiao	華南師範大学、中国
2011.12.16	Education for Sustainable Development Our Concepts & Practice	Gao Lingbiao	華南師範大学、中国
2012.01.13	The current major Environmental pollution in Indonesia	Inneke F. M. Rumengan	サムラトランギ大学、インドネシア
2012.01.20	Coastal pollution in Indonesia	Inneke F. M. Rumengan	サムラトランギ大学、インドネシア

2012年前期 アジアの環境とその保全 II

講義日	講義内容	講師名	所属
2012.04.13	Introduction	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2012.04.20	Natural Environment in Malaysia	Murad Abd. Ghani	マレーシア・ボトラ大学、マレーシア
2012.04.27	ESD Movement and Environmental Education in Malaysia	Murad Abd. Ghani	マレーシア・ボトラ大学、マレーシア
2012.05.11	Implementing ESD in the Enterprises — Take the pearl river delta region in China as an example —	Chen Dongmei	華南師範大学、中国
2012.05.18	ESD and Environmental Education in Vietnam I	Hoang Hai	ダナン大学、ベトナム

講義日	講義内容	講師名	所属
2012.05.25	ESD and Environmental Education in Vietnam II	Hoang Hai	ダナン大学、ベトナム
2012.06.01	The Philippines: Its Environment and Present Socio - Economic situation	Fabian M. Dayrit	アテネオ・デ・マニラ大学、フィリピン
2012.06.08	Education for Sustainable Development	Fabian M. Dayrit	アテネオ・デ・マニラ大学、フィリピン
2012.06.15	Discussion	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2012.06.22	Climate Change and Biodiversity Depletion	Jae C. Choe	梨花女子大学、韓国
2012.06.29	Environ Sustainable Development "Green Building"	Ellen J. Kumaat	サムラランギ大学、インドネシア
2012.07.06	Buildings are Part of the Solution	Ellen J. Kumaat	サムラランギ大学、インドネシア
2012.07.13	Human Nature and Welfare	Jae C. Choe	梨花女子大学、韓国
2012.07.20	Education for Sustainable Development in Thailand: a case of Water Based Bangkok, Thailand	Suwattana Thadaniti	カセサート大学、タイ
2012.07.27	Learning the Greatness of Mother Nature through Festival, Case of Lot Krathong Water Festival in Thailand	Suwattana Thadaniti	カセサート大学、タイ

## 2012年後期 アジアの環境とその保全 I

講義日	講義内容	講師名	所属
2012.10.05	Organohalogens in the Philippines: Implications on Human Exposure	Maricar S. Prudente	デ・ラ・サール大学、フィリピン
2012.10.19	Restrospective Assessment of Anthropogenic Contaminants in Sediments from Manila Bay	Maricar S. Prudente	デ・ラ・サール大学、フィリピン
2012.11.02	Lecture1: Oil Spill and Oil Pollution Sources	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・プトラ大学、マレーシア
2012.11.09	Lecture2: Oil Spill and Oil Pollution Sources	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・プトラ大学、マレーシア
2012.11.23	Food Waste Management in Korea	Wookeun Bae	梨花女子大学、韓国
2012.11.30	The River Quality and the Four Major Rivers Restoration Project in Korea	Wookeun Bae	梨花女子大学、韓国
2012.12.07	Heavy metal pollution in Taiwan	Chih-Ching Chien	元智大学、台湾
2012.12.14	Environment the biggest challenge for China: Situation, Preservation and Sustainable Development I	Zeng Lixuan	華南師範大学、中国
2012.12.21	Environment the biggest challenge for China: Situation, Preservation and Sustainable Development II	Zeng Lixuan	華南師範大学、中国
2013.01.11	The current major Environmental Issues in Indonesia 1	Inneke F. M. Rumengan	サムラランギ大学、インドネシア
2013.01.18	The current major Environmental Issues in Indonesia 2	Inneke F. M. Rumengan	サムラランギ大学、インドネシア
2013.01.25	Discussion	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部

2013年前期 アジアの環境とその保全Ⅱ

講義日	講義内容	講師名	所属
2013.04.12	Introduction	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2013.04.19	Malaysia: Natural environment	Murad Abd. Ghani	マレーシア・プトラ大学、 マレーシア
2013.04.26	ESD Movement and Environmental Education in Malaysia	Murad Abd. Ghani	マレーシア・プトラ大学、 マレーシア
2013.05.10	Education for Sustainable Development — Concept & Practice —	Gao Lingbiao	華南師範大学、 中国
2013.05.17	ESD - Meaning and Scope and ESD Implementation in Vietnam	Hoang Hai	ダナン大学、 ベトナム
2013.05.24	ESD - Meaning and Scope and ESD Implementation in Vietnam	Hoang Hai	ダナン大学、 ベトナム
2013.05.31	The Philippines Environment Understanding the Past to Prepare for the Future	Fabian M. Dayrit	アテネオ・デ・マニラ大学、 フィリピン
2013.06.07	Education for Sustainable Development	Fabian M. Dayrit	アテネオ・デ・マニラ大学、 フィリピン
2013.06.14	Climate Change and Biodiversity Depletion	Jae C. Choe	梨花女子大学、 韓国
2013.06.21	Discussion	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2013.06.28	Environ Sustainable Development “Green Building”	Ellen J. Kumaat	サムラランギ大学、 インドネシア
2013.07.05	Buildings are Part of the Solution	Ellen J. Kumaat	サムラランギ大学、 インドネシア
2013.07.12	Human Nature and Welfare	Jae C. Choe	梨花女子大学、 韓国
2013.07.19	Education for Sustainable Development in Thailand: a case of Water based Bangkok, Thailand	Suwattana Thadaniti	カセサート大学、 タイ
2013.07.26	Learning the Greatness of Mother Nature through Festival, cases of Songkran and Loy Krathong Water Festival in Thailand	Suwattana Thadaniti	カセサート大学、 タイ

2013年後期 アジアの環境とその保全Ⅰ

講義日	講義内容	講師名	所属
2013.10.04	Introduction	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2013.10.18	Innovations in Water Quality Monitoring in Lake Palakpakin, Philippines	Teresita Ramos Perez	アテネオ・デ・マニラ大学、 フィリピン
2013.11.08	The Environment: Distribution, Sources and Transport Pathways	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・プトラ大学、 マレーシア
2013.11.15	Mining: environmental implications and environmental friendly innovations	Teresita Ramos Perez	アテネオ・デ・マニラ大学、 フィリピン
2013.11.18	Emerging Contaminants in the Environment: Distribution, Sources and Transport Pathways	Mohamad Pauzi Zakaria	マレーシア・プトラ大学、 マレーシア
2013.11.22	Evaluation of organotins compounds and new antifouling agents in the coastal environment of Korea	Hyeon Seo Cho	全南大学、 韓国
2013.11.29	Perfluorinated Chemicals and Coastal Environment (a case study) in Korea	Hyeon Seo Cho	全南大学、 韓国
2013.12.06	Heavy metal pollution in Taiwan	Chih-Ching Chien	元智大学、 台湾
2013.12.13	Soil and Groundwater Pollution Investigation and Remediation: Case studies in Taiwan	Chih-Ching Chien	元智大学、 台湾
2013.12.20	Environment the biggest challenge for China: Situation, Preservation and Sustainable Development	Zeng Lixuan	華南師範大学、 中国

講義日	講義内容	講師名	所属
2014.01.10	Education for Sustainable Development — Concept & Practice —	Gao Lingbiao	華南師範大学、 中国
2014.01.17	The current major Environmental Issues in Indonesia 1	Inneke F. M. Rumengan	サムラトランギ大学、 インドネシア
2014.01.24	The current major Environmental Issues in Indonesia 2	Inneke F. M. Rumengan	サムラトランギ大学、 インドネシア



## -2 日本の環境とその保全 (I・II)

後期「日本の環境とその保全 I」(2単位)

Autumn semester: Environmental issues and ESD progress in Japan I (2 credits)

前期「日本の環境とその保全 II」(2単位)

Spring semester: Environmental issues and ESD progress in Japan II (2 credits)

担当教員 武中 桂

「アジアの環境とその保全」と同様にESDプログラムの座学の1つとして位置づけている本科目は、日本国内、本学内外の講師陣が講義を担当する。本科目では、自然科学、環境科学、健康科学から人文科学、社会科学にまたがる幅広い学際的な領域をカバーする講師陣によるリレー式の講義を行う。また、環境に配慮した取組みを実践する民間企業の見学や、先駆的にESDを展開する学術施設のバックヤードツアーも実施する。日本がこれまでに直面し、解決してきたさまざまな「公害」や環境問題について包括的に学び、各々の履修生が各出身国にて直面している環境問題の状況に対して、より有意義かつ効果的、先駆的なESDに関する活動を展開し、牽引できるための幅広い知識と実践力を身につける。

## 2010年後期 日本の環境とその保全 I

(敬称略)

講義日	講義内容	講師名	所属
2010.10.06	Change of environmental administration system and laws in Japan	志々目 友博	公益財団法人 地球環境戦略研究 機関関西センター
2010.10.13	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (1)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2010.10.20	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (2)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2010.10.27	HIV -tained blood products and infected hemophiliac patients: the Japanese situation during 1980-1990	横田 恵子	神戸女学院大学 文学部
2010.11.10	History of environmental pollution as social and economic issues	畑 明郎	大阪市立大学大学院 経営学研究科
2010.11.17	Aquatic environmental pollution — from the perspective of environmental science	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2010.11.24	Air pollution — from the perspective of environmental science	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2010.12.02	Effects of environmental pollutants on wildlife	川合 眞一郎	甲子園大学 栄養学部
2010.12.08	Effects of environmental pollutants on human body	西田 昌司	神戸女学院大学 人間科学部
2010.12.15	Considering Industrial Waste Dumping — Case of Yokkaichi and Ritto cities —	畑 明郎	大阪市立大学大学院 経営学研究科
2010.12.22	Current status 7 years after the enactment of Soil Contamination Countermeasures Law and Future Issues	畑 明郎	大阪市立大学大学院 経営学研究科
2011.01.12	Measures against environmental pollution “Current environmental issues : Global environmental issues”	木村 啓二	立命館大学 国際関係学部
2011.01.19	Factory tour: Sumitomo Chemical Osaka Works	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部
2011.02.10	Factory tour: Suntory Products Takasago Factory	西田 昌司	神戸女学院大学 人間科学部

## 2011年前期 日本の環境とその保全 II

講義日	講義内容	講師名	所属
2011.04.13	Climate and vegetation of Japan	野崎 玲児	神戸女学院大学 人間科学部
2011.04.20	Biography and Biodiversity of Animal in Japan	遠藤 知二	神戸女学院大学 人間科学部
2011.04.28	Conservation of Marine Environments and Fisheries of Japan	川合 眞一郎	甲子園大学 栄養学部

講義日	講義内容	講師名	所属
2011.05.11	Culture and nature: From the view of adaptation	山 祐嗣	大阪市立大学大学院 文学研究科
2011.05.18	Environmental behavior in social psychology	小林 知博	神戸女学院大学 人間科学部
2011.05.25	Nature conservation policy	松尾 浩司	環境省 近畿地方事務所 神戸自然保護官事務所
2011.06.01	Environmental policies of Nishinomiya City	的場 直樹	西宮市 環境学習推進グループ
2011.06.08	Environmental education I	三宅 志穂	神戸女学院大学 人間科学部
2011.06.15	Environmental education II	三宅 志穂	神戸女学院大学 人間科学部
2011.06.22	Actions in Japan (Current situation of environmental education)	山根 正慎	環境省 近畿地方事務所
2011.06.29	Cooperation between local area and Kobe College	山本 義和	神戸女学院大学 名誉教授
2011.07.06	Action in local communities	添田 晴雄	大阪市立大学大学院 文学研究科
2011.07.13	ESD case examples	添田 晴雄	大阪市立大学大学院 文学研究科
2011.07.20	Museum Tour: Lake Biwa Museum	Robin J. Smith 楊 平	滋賀県立琵琶湖博 物館

## 2011年後期 日本の環境とその保全 I

講義日	講義内容	講師名	所属
2011.10.05	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (1)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2011.10.19	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (2)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2011.10.26	HIV-tainted blood products and infected hemophiliac patients: the Japanese situation during 1980-1990	横田 恵子	神戸女学院大学 文学部
2011.11.02	History of environmental pollution as social and economic issues	畑 明郎	滋賀環境問題研究所
2011.11.09	Aquatic environmental pollution — from the perspective of environmental science	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2011.11.16	Air pollution — from the perspective of environmental science	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2011.11.24	Current Situation of Environmental Pollution — Effects of Environmental Pollutants on Wildlife —	川合 眞一郎	甲子園大学 栄養学部
2011.12.01	Effects of environmental pollutants on human body	西田 昌司	神戸女学院大学 人間科学部
2011.12.07	Current environmental issues: Waste problem	畑 明郎	滋賀環境問題研究所
2011.12.14	Current environmental issues: Contamination of soil and ground water	畑 明郎	滋賀環境問題研究所
2011.12.21	Waste Management Policy in Japan	水谷 好裕	公益財団法人 地球環境センター
2012.01.11	International Negotiation on Climate Change	水谷 好裕	公益財団法人 地球環境センター
2012.01.18	Measures against environmental pollution Energy and Environment problems and policy	木村 啓二	立命館大学 国際関係学部
2012.01.19	Factory tour: Sumitomo Chemical Osaka Works	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部
2012.01.27	Factory tour: Suntory Products Takasago Factory	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部

2012年前期 日本の環境とその保全Ⅱ

講義日	講義内容	講師名	所属
2012.04.11	Climate and vegetation of Japan	野崎 玲児	神戸女学院大学 人間科学部
2012.04.18	Biography and Biodiversity of Animal in Japan	遠藤 知二	神戸女学院大学 人間科学部
2012.04.26	Natural Environment of Japan: Conservation of Marine Environments and Fisheries of Japan	川合 眞一郎	甲子園大学 栄養学部
2012.05.09	Culture and nature: From the view of adaptation	山 祐嗣	大阪市立大学大学院 文学研究科
2012.05.17	Environmental behavior in social psychology	小林 知博	神戸女学院大学 人間科学部
2012.05.23	Environmental Science for Citizens — Citizen Monitoring and Risk Evaluation —	古武家 善成	神戸学院大学 学際教育機構
2012.05.30	Nature conservation policy	関 孝史	環境省 近畿地方事務所 神戸自然保護官事務所
2012.06.06	Environmental Education — The way of Sharing Nature —	三宅 志穂	神戸女学院大学 人間科学部
2012.06.13	Sustainable Community Development through Environmental learning with Participation and Collaboration of Citizens, Businesses and Municipal Governner	藤本 沙織	西宮市 環境学習都市推進課
2012.06.20	Current situation of environmental education “community development to live with environment”	田村 博美	(株)オバ技術 大阪市立大学 工学部 (非常勤講師)
2012.06.27	The current situation of ESD movement in local area (1)	添田 晴雄	大阪市立大学大学院 文学研究科
2012.07.04	The current situation of ESD movement in local area (2)	添田 晴雄	大阪市立大学大学院 文学研究科
2012.07.11	Current situation of environmental education “community development to live with environment”	豊田 光世	兵庫県立大学 人間環境学部
2012.07.20	Museum Tour: Lake Biwa Museum	中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博 物館

2012年後期 日本の環境とその保全Ⅰ

講義日	講義内容	講師名	所属
2012.10.03	Environmental Issues: the scientific, economic, social, and political issues	白石 賢二	公益財団法人 地球環境センター
2012.10.10	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (1)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2012.10.17	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (2)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2012.10.24	Climate change and water resources management	Sunmin Kim	京都大学大学院 工学研究科
2012.10.31	Aquatic environmental pollution — from the perspective of environmental science	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2012.11.07	Current environmental issues: Waste problem	畑 明郎	滋賀環境問題研究所
2012.11.14	Energy and Environment Problems and Policies in Japan	木村 啓二	立命館大学 国際関係学部
2012.11.21	Chemical compounds pollution	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2012.11.28	Aquatic pollution by chemicals widely used in the household — PPCPs and Detergents —	古武家 善成	神戸学院大学 学際教育機構
2012.12.06	Effects of environmental pollutants on human body	西田 昌司	神戸女学院大学 人間科学部

講義日	講義内容	講師名	所属
2012.12.13	The past, present and future environmental problems in Japan	川合 眞一郎	甲子園大学 栄養学部
2012.12.19	Current environmental issues: Contamination of soil and ground water	畑 明郎	滋賀環境問題研究所
2013.01.09	Environmental policies: Essential problem solving tools	白石 賢二	公益財団法人 地球環境センター
2013.01.17	Factory tour: Suntory Products Takasago Factory	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部
2013.01.23	Factory tour: Sumitomo Chemical Osaka Works	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部

## 2013年前期 日本の環境とその保全Ⅱ

講義日	講義内容	講師名	所属
2013.04.10	Climate and vegetation of Japan	野寄 玲児	神戸女学院大学 人間科学部
2013.04.17	Biography and Biodiversity of Animal in Japan	遠藤 知二	神戸女学院大学 人間科学部
2013.05.09	Conservation of Marine Environments and Fishers of Japan	川合 眞一郎	甲子園大学 栄養学部
2013.05.15	Culture and nature: From the view of adaptation	山 祐嗣	大阪市立大学大学院 文学研究科
2013.05.23	Environmental behavior in social psychology	小林 知博	神戸女学院大学 人間科学部
2013.05.29	Environmental Science for Citizens — Citizen Monitoring and Risk Evaluation —	古武家 善成	神戸学院大学 学際教育機構
2013.06.05	Nature conservation policy	関 孝史	環境省 近畿地方事務所 神戸自然保護官事務所
2013.06.12	Environmental Education — The way of Sharing Nature —	三宅 志穂	神戸女学院大学 人間科学部
2013.06.19	Nishinomiya biodiversity strategy	山中 直子	西宮市 環境学習都市推進課
2013.06.26	Current situation of environmental education “community development to live with environment”	田村 博美	㈱TH都市デザイン研究所 大阪市立大学 工学部(非常勤講師)
2013.07.03	The current situation of ESD movement in local area (1)	添田 晴雄	大阪市立大学大学院 文学研究科
2013.07.10	The current situation of ESD movement in local area (2)	添田 晴雄	大阪市立大学大学院 文学研究科
2013.07.17	Current situation of environmental education “community development to live with environment”	豊田 光世	兵庫県立大学 人間環境学部
2013.07.24	Discussion	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部
2013.07.25	Museum Tour: Lake Biwa Museum	Mark J. Grygier	滋賀県立琵琶湖博 物館

## 2013年後期 日本の環境とその保全Ⅰ

講義日	講義内容	講師名	所属
2013.10.09	Environmental Issues: the scientific, economic, social, and political issues	白石 賢二	公益財団法人 地球環境センター
2013.10.16	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (1)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部
2013.10.23	Minamata disease and Itai-itai disease — from the perspective of engineering (2)	寺嶋 正明	神戸女学院大学 人間科学部

講義日	講義内容	講師名	所属
2013.10.30	Climate change and water resources management	Sunmin Kim	京都大学 防災研究所
2013.11.07	Air pollution — from the perspective of environmental science	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2013.11.13	Aquatic environmental pollution — from the perspective of environmental science	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部
2013.11.20	Aquatic pollution by chemicals widely used in the household — PPCPs and Detergents — from the perspective of environmental science— Energy and Environment Problems and Policies in Japan	古武家 善成	神戸学院大学 学際教育機構
2013.11.27	The History of Environmental Disruption in Japan — The Mining Pollution —	畑 明郎	滋賀環境問題研究所
2013.12.04	The Countermeasures of Environmental Pollution in Japan — The Soil Pollution —	畑 明郎	滋賀環境問題研究所
2013.12.12	The past, present and future environmental problems in Japan	川合 眞一郎	甲子園大学 栄養学部
2013.12.19	Effects of environmental pollutants on human body	西田 昌司	神戸女学院大学 人間科学部
2014.01.15	Environmental policies: Essential problem solving tools	白石 賢二	公益財団法人 地球環境センター
2014.01.22	Factory tour: Sumitomo Chemical Osaka Works	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部
2014.03.17	Factory tour: Suntory Products Takasago Factory	武中 桂	神戸女学院大学 人間科学部



後期「インターンシップ I」(4単位)

Autumn semester : Internship I (4 credits)

前期「インターンシップ II」(4単位)「インターンシップ III」(2単位)

Spring semester : Internship II (4 credits) Internship III (2 credits)

担当教員 小川 雅由 (NPO法人 こども環境活動支援協会事務局長) / 武中 桂

本科目は、ESDプログラムの実地体験の1つとして位置づけており、NPO法人 こども環境活動支援協会 (LEAF) との連携で実施する。レクチャーとフィールド学習からESDの基本理念の理解、フィールドとなる西宮市ならびにNPO法人 こども環境活動支援協会の活動、環境活動の仕組み、NPO法人の役割などの理解につなげる。さらに、ESDの概念を組込んだ事業への理解を深めたり、西宮市の環境学習事業や地域実践に積極的、主体的に参加したり、NPO法人 こども環境活動支援協会の活動に参加してスタッフとして事業実践を行ったりすることによって、実践的にESDについて学ぶ場を提供する。また、環境省、JICA訪問や環境に配慮した取組みを実践する企業訪問など東京での実習も行い、地域に応じたESD展開のあり方を考えながら、実践力を習得する。

### 2010年後期 インターンシップ I

(敬称略)

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2010.10.14	ESD講義①	小川 雅由	LEAF事務局
2010.10.16	兵庫県の漁業事業と海環境についての学び 明石魚棚見学	兵庫県漁業協同組合 小川 雅由	兵庫県水産会館
2010.10.21	ESD講義②	小川 雅由	LEAF事務局
2010.10.28	ESD講義③	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター
2010.11.06	ESDに関する高等学校での授業の見学	小川 雅由	武庫川女子大学高等部
2010.11.09	ESD講義④	小川 雅由	LEAF事務局
2010.11.11	ESDに関する小学校での授業の見学	小川 雅由	コープこうべ (コープ北口食彩館)
2010.11.16	西宮市新任教員研修の見学	小川 雅由	西宮市立総合教育センター
2010.11.23	甲山農業塾収穫祭への参加	久世 竜	甲山農地
2010.11.25	ESD講義⑤	小川 雅由	LEAF事務局
2010.11.27	西宮市エココミュニティ会議活動への参加	小川 雅由	西宮市立春風公民館
2010.11.30	にしのみやふるさとウォーク2010 現場下見 にしのみやふるさとウォーク2010 クイズ作成	長手 聖美	甲子園駅周辺
2010.12.04	にしのみやふるさとウォーク2010への参加	小川 雅由 長手 聖美	甲子園駅周辺
2010.12.07	保育所での環境活動の見学 ESD講義⑥	小川 雅由	西宮市立高須保育園、 LEAF事務局
2010.12.09	小学校でのPTAと連携した環境活動の見学	小川 雅由	西宮市立上甲子園 小学校
2010.12.11	国際理解講座「日本と世界の環境」への参加と留学生による報告	小川 雅由	西宮市国際交流協会
2010.12.13	EWCニュース (西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送作業	松原 暁子	LEAF事務局
2010.12.16	しめ縄づくり体験	久世 竜	甲山農地
2010.12.18	西宮市内環境学習施設の見学	長手 聖美	西宮市内
2010.12.21	ESD講義⑦	小川 雅由	LEAF事務局
2010.12.24	EWC (Earth Watching Club) エコメッセージ活動	小川 雅由	LEAF事務局
2011.01.10	十日戎大祭見学	小川 雅由	西宮神社
2011.01.11	ESD講義⑧	小川 雅由	LEAF事務局
2011.01.13	甲東エココミュニティ会議活動発表展への参加 甲東エココミュニティ会議定例会議の傍聴	小川 雅由	公益財団法人 西宮市文化振興財団、 西宮市甲東ホール展 示室、同会議室

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2011.01.15	市民ボランティアとの落ち葉かき作業	小川 雅由	甲山湿原
2011.01.17	ESD講義⑨ 西宮市環境パネル展2011 海外出展作品の整理	小川 雅由	LEAF事務局
2011.01.18	西宮市国際交流デー出展内容の検討 国際防災シンポジウム2011への参加	小川 雅由	LEAF事務局、 よみうり神戸ホール
2011.01.20	西宮市国際交流デー出展準備作業	小川 雅由	LEAF事務局
2011.01.22	ESD推進ビジョン策定検討会への参加	小川 雅由	西宮市役所東館大 ホール
2011.01.24	2010年度 EWC環境パネル展 海外出展作品の整理	小川 雅由	LEAF事務局
2011.01.25	ESD講義⑩	小川 雅由	神戸女学院大学
2011.01.28	東海市職員視察対応の見学 ESD講義⑪ エココミュニティ会議関係者勉強会への参加	小川 雅由	LEAF事務局、 株式会社損害保険 ジャパン西宮支社会 議室
2011.02.01	小学校の環境体験授業の視察 ESD講義⑫	小川 雅由	西宮市立甲子園浜 自然環境センター
2011.02.03	(A班) 2010年度 EWC環境パネル展 海外出展作品展示準備 (B班) 甲山農地苗づくり作業	小川 雅由 久世 竜	LEAF事務局 甲山農地
2011.02.04	(A班) 甲山農地苗づくり作業 (B班) 2010年度 EWC環境パネル展 海外出展作品展示準備	久世 竜 小川 雅由	甲山農地 LEAF事務局
2011.02.07	2010年度 EWC環境パネル展 案内チラシ発送作業	松原 暁子	LEAF事務局
2011.02.11	西宮市国際交流デー出展準備	小川 雅由	LEAF事務局
2011.02.13	西宮市国際交流デー出展	小川 雅由	フレンテ西宮
2011.02.14	行政視察(下水処理施設の見学、上水処理施設の見学)	西宮市 環境学習 都市推進グループ、 小川 雅由	西宮処理場甲子園 浜浄化センター、 丸山浄水場・貯水池
2011.02.15	行政視察(西宮市の歴史と平和への取組み理解、西宮市の緑化の取組み)	西宮市 環境学習 都市推進グループ、 小川 雅由	西宮市立郷土資料館、 西宮市平和資料館、 西宮市北山緑化植物園 植物生産研究センター
2011.02.16	行政視察(地すべりのしくみや防災への考え方の理解、西宮の伝統的和紙づくりの見学)	西宮市 環境学習 都市推進グループ、 小川 雅由	仁川百合野町地す べり資料館、 西宮市立名塩和紙 学習館
2011.02.17	行政視察(議会傍聴、健康医療、健康増進の取組みの理解)	西宮市 環境学習 都市推進グループ、 小川 雅由	西宮市議会、 西宮市保健福祉センター、 北口保健福祉センター
2011.02.25	ESD講義⑬	小川 雅由	LEAF事務局
2011.02.27	コープこうべ第2地区本部主催イベントへの協力	小川 雅由	LEAF事務局
2011.02.28	2010年度 EWC環境パネル展 作品展示作業 LEAF理事会の傍聴、JICAチリ研修員との交流	小川 雅由	西宮市立西宮市民 ギャラリー、 西宮市役所東館
2011.03.05	エココミュニティ会議交流会への参加	小川 雅由	西宮市立西宮市民 ギャラリー
2011.03.06	2010年度 EWC環境パネル展 表彰式への参加と作品撤去作業	小川 雅由	西宮市立西宮市民 ギャラリー
2011.03.10	兵庫県立大学国際シンポジウムへの参加	小川 雅由	兵庫県立大学
2011.03.11	2010年度 EWC環境パネル展 海外作品感謝状送付の準備作業 ESD推進協議会の傍聴	小川 雅由	LEAF事務局、 西宮市役所東館
2011.03.14	エコアクションニュース発送作業	松原 暁子	LEAF事務局
2011.03.17	甲東エココミュニティ会議定例会の傍聴 ESD講義⑭	小川 雅由	西宮市甲東支所会 議室、 LEAF事務局

## 2011年前期 インターンシップⅡ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2011.04.09	ESD講義① 夙川河川敷見学	小川 雅由	LEAF事務局、 夙川河川敷
2011.04.11	EWCニュース(西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送作業	松原 暁子	LEAF事務局
2011.04.12	ESD講義②	小川 雅由	神戸女学院大学
2011.04.14	西宮市生物多様性地域戦略策定協議会の傍聴	小川 雅由	西宮市役所東館
2011.04.18	EWCニュース(西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送作業	松原 暁子	西宮市環境学習サ ポートセンター
2011.04.19	EWC(Earth Watching Club) 20周年シンポジウム「海外メッセージ」の作成	小川 雅由	LEAF事務局
2011.04.21	EWC(Earth Watching Club) 20周年シンポジウム「海外メッセージ」の作成	小川 雅由	LEAF事務局
2011.04.25	EWCニュース(西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送作業	松原 暁子	西宮市環境学習サ ポートセンター
2011.04.26	ESD講義③	小川 雅由	神戸女学院大学
2011.04.28	野菜の苗つけ作業	久世 竜	甲山農地
2011.05.03	西宮市貝類館でのイベント参加	小川 雅由	西宮市貝類館
2011.05.04	西宮市貝類館でのイベント参加	小川 雅由	西宮市貝類館
2011.05.05	西宮市貝類館でのイベント参加	小川 雅由	西宮市貝類館
2011.05.10	田んぼ代掻き、野菜苗つけ作業	久世 竜	甲山農地
2011.05.17	ESD講義④	小川 雅由	神戸女学院大学
2011.05.20	LEAF定例総会の傍聴	小川 雅由	西宮市役所東館
2011.05.26	田植え、野菜の苗つけ作業	久世 竜	甲山農地
2011.05.31	保育園児対象の自然体験の見学	小川 雅由	西宮市立甲子園浜 自然環境センター
2011.06.02	ESD講義⑤	小川 雅由	神戸女学院大学
2011.06.04	こども農業塾活動支援への参加	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2011.06.05	こども農業塾活動支援への参加	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2011.06.09	ESD講義⑥ 甲陽園エココミュニティ会議の傍聴	小川 雅由	LEAF事務局、 神原市民館
2011.06.14	西宮市生物多様性地域戦略策定協議会の見学 宮水学園(高齢者大学環境コース)での発表	小川 雅由	西宮市役所東館、 西宮市立総合教育 センター
2011.06.21	ESD講義⑦	小川 雅由	神戸女学院大学
2011.06.27	EWCニュース(西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送作業	松原 暁子	LEAF事務局
2011.06.30	田んぼの手入れ、畑の手入れ作業	久世 竜	甲山農地
2011.07.05	ESD講義⑧ 「食と農と環境の体験教室」(ハウス食品主催)の打ち合わせへの参加	小川 雅由	神戸女学院大学、 LEAF事務局
2011.07.14	小学校での企業による環境学習支援の見学	松原 暁子	西宮市立深津小学校
2011.07.16	伝統文化の見学(祇園祭)	松浦 斉美	京都市内
2011.07.17	「食と農と環境の体験教室」(ハウス食品主催)への参加	小川 雅由	甲山農地
2011.07.21	西宮市の廃棄物処理についての学習 LEAF企業会員の取組み見学	小川 雅由	西宮市西部総合処理 センター、株式会社大 栄、株式会社吉田製 作所、マツダ株式会社
2011.07.26	春風エココミュニティ会議への参加	小川 雅由	仁川広河原
2011.07.30	こども農業塾活動支援への参加	久世 竜	甲山神呪寺農地

2011年前期 インターンシップⅢ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2011.08.03	環境省訪問(環境省 環境教育推進室にて意見交換)、 ハウス食品株式会社訪問(企業の食農教育支援事業についての学び)	小川 雅由	東京都内
2011.08.04	外務省訪問(外務省におけるESD事業についての学び)、 独立行政法人 国際協力機構訪問(日本政府の国際協力事業についての学び)	小川 雅由	東京都内
2011.08.16	関西エリアにおける天然ガス供給の現状についての学び 城郭の大規模改修技術の見学	小川 雅由	大阪ガス株式会社、 姫路ガスエネルギー館、 姫路城
2011.08.18	バスツアー(関西エリアにおける天然ガス供給の現状についての学び)	小川 雅由	関西電力株式会社、 大飯原子力発電所
2011.08.20	貝の解剖教室への参加	小川 雅由	西宮市貝類館
2011.08.23	西宮市の防災計画についての学び	小川 雅由	西宮市防災・安全統括室
2011.08.24	バスツアー(廃棄物処理施設の見学、食品工場の環境対策と自然共生の取組みについての学び、博物館見学)	小川 雅由	株式会社リボックス、 キリンピアパーク神戸 工場、兵庫県立人と 自然の博物館
2011.08.25	西宮市の福祉政策についての学び	小川 雅由	西宮市総合福祉センター
2011. 09.10-11	第3回こども農業塾への参加	小川 雅由	甲山農地・甲山自然 環境センター

2011年後期 インターンシップⅠ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2011.10.06	イントロダクション 小学校における環境教育(授業)の見学	長手 聖美	LEAF事務局、 西宮市立平木小学校
2011.10.11	ESD講義① 西宮市新任教員研修の見学	小川 雅由	LEAF事務局、 西宮市立総合教育 センター
2011.10.13	リサイクルプラザの見学	小川 雅由	西宮市西部総合処 理センター
2011.10.18	ESD講義② 西宮市新任教員研修の見学	小川 雅由 添田 晴雄	LEAF事務局、 西宮市立総合教育 センター
2011.10.19	神戸女学院大学「NPOマネジメント論」への参加	長手 聖美	神戸女学院大学
2011.10.20	ESD講義③ 幼児教育におけるESD推進現場の見学	小川 雅由	LEAF事務局、 西宮市立総合教育 センター
2011.10.25	ESD講義④ 西宮市新任教員研修の見学	小川 雅由	LEAF事務局、 西宮市立総合教育 センター
2011.11.01	京都大学地球環境学堂 ESDフォーラムへの参加	小川 雅由	京都大学
2011.11.07	EWCニュース(西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送準備作業	松原 暁子	LEAF事務局
2011.11.12	災害時サポーター養成講座の見学	松浦 斉美	西宮市立津門小学校
2011.11.14	西宮市新任保育士研修の見学	小川 雅由	甲山農地
2011.11.17	にしのみやふるさとウォーク2011 現場下見 にしのみやふるさとウォーク2011 クイズ作成	長手 聖美	片鉾池 (香櫛園遊園地跡)
2011.11.17	ESD講義⑤	小川 雅由	LEAF事務局
2011.11.22	ESD講義⑥	小川 雅由	LEAF事務局
2011.11.29	小学校での環境教育の見学	松原 暁子	西宮市北山緑化植 物園
2011.12.03	にしのみやふるさとウォーク2011への参加	松浦 斉美	夙川河川敷公園
2011.12.06	JICA大洋州研修補助の見学	小川 雅由	西宮市立中央公民館

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2011.12.10	こども農業塾活動の補助	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2011.12.12	JICA大洋州研修補助の見学	小川 雅由	西宮市立むつみ保育園、 西宮市立深津小学校、 LEAF事務局
2011.12.13	JICA大洋州研修補助の見学	小川 雅由	西宮市役所東館
2011.12.17	神戸女学院大学「地域活性化論」フィールドワークへの参加	小川 雅由	甲山、社家郷山
2011.12.20	ESD講義⑦	小川 雅由	LEAF事務局
2012.01.08	農地活動、餅つき	久世 竜	鷺林寺農地、 西宮市立社家郷山 キャンプ場
2012.01.12	ESD講義⑧	小川 雅由	LEAF事務局
2012.01.14	LEAFボランティアとの交流活動	小川 雅由	西宮市立甲山自然 環境センター
2012.01.17	ESD講義⑨	小川 雅由	LEAF事務局
2012.01.23	EWC (Earth Watching Club) エコメッセンジャー表彰盾の作成作業	松原 暁子	LEAF事務局
2012.01.24	ESD講義⑩	小川 雅由	LEAF事務局
2012.01.26	ESD講義⑪	小川 雅由	LEAF事務局
2012.01.31	西宮市国際交流デー出展準備作業	小川 雅由	LEAF事務局
2012.02.02	保育士対象環境教育研修の見学	小川 雅由	西宮市役所
2012.02.07	西宮市国際交流デー出展準備作業	小川 雅由	LEAF事務局
2012.02.12	西宮市国際交流デーへの参加	小川 雅由	公益財団法人 西宮市文化振興財団 フレンテ西宮
2012.02.13	EWCニュース(西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送作業	松原 暁子	LEAF事務局
2012.02.21	西宮市の人権教育についての学び	米口 征代 (西宮市教育委員 会指導主事)	LEAF事務局
2012.02.23	2011年度 EWC環境パネル展 海外作品展示準備作業	松原 暁子	LEAF事務局
2012.02.26	貝を使ったひな人形づくりへの参加	多田 智恵子	西宮市貝類館
2012.03.05	2011年度 EWC環境パネル展 海外作品展示作業	小川 雅由	西宮市立西宮市民 ギャラリー
2012.03.10	エココミュニティ会議交流会への参加	小川 雅由	西宮市立西宮市民 ギャラリー
2012.03.11	2011年度 EWC環境パネル展 表彰式への参加、 2011年度 EWC環境パネル展 作品撤去作業	小川 雅由	西宮市立西宮市民 ギャラリー
2012.03.14	エココミュニティ会議 バスツアーへの参加	小川 雅由	西宮市内
2012.03.16	ESD講義⑫	小川 雅由	LEAF事務局
2012.03.23	夏野菜苗準備作業	久世 竜	甲山農地

## 2012年前期 インターンシップⅡ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2012.04.07	川の自然観察への参加	野口 明美	西宮市立甲山自然 環境センター
2012.04.10	ESD講義①	小川 雅由	LEAF事務局
2012.04.12	農地整備作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2012.04.14	セイフティ&エコセミナーへの参加	高橋 学 (立命館大学教授)	西宮市役所東館
2012.04.16	EWCニュース(西宮市内全小学校へ配布のニュースレター) 発送作業	松原 暁子	西宮市環境学習サ ポートセンター
2012.04.21	セイフティ&エコセミナーへの参加	小川 雅由	西宮市役所東館

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2012.04.24	ESD講義②	小川 雅由	LEAF事務局
2012.04.26	農地整備作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2012.05.03	西宮市貝類館事業の支援	小川 雅由	西宮市貝類館
2012.05.06	甲子園浜野鳥保護啓発チラシ配布作業	小川 雅由	西宮市立甲子園浜 自然環境センター
2012.05.08	ESD講義③	小川 雅由	LEAF事務局
2012.05.10	農地作業	久世 竜	甲山神呪寺農地
2012.05.12	まちの語り部養成セミナーへの参加	小川 雅由	甲山地域
2012.05.24	農地整備作業	久世 竜	甲山神呪寺農地
2012.05.25	LEAF定例総会の傍聴	小川 雅由	西宮市役所東館
2012.05.29	ESD講義④	小川 雅由	LEAF事務局
2012.06.02	こども農業塾の支援と見学	久世 竜	西宮市立甲山自然 環境センター、 甲山神呪寺農地
2012.06.05	ESD講義⑤	小川 雅由	LEAF事務局
2012.06.10	農を通じた総合的な人間力形成プログラム①	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2012.06.14	水道浄化センターのしくみについての学び	小川 雅由	阪神水道企業団尼 崎浄水場
2012.06.17	農を通じた総合的な人間力形成プログラム②	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2012.06.19	ESD講義⑥	小川 雅由	LEAF事務局
2012.06.28	下水浄化センターのしくみについての学び	小川 雅由	西宮処理場甲子園 浜浄水センター
2012.06.30	まちの語り部養成セミナーへの参加	小川 雅由	コープこうべ ゆとり生活館アミ
2012.07.01	農を通じた総合的な人間力形成プログラム③	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2012.07.09	西宮市貝類館チラシ配布作業	小川 雅由	LEAF事務局
2012.07.10	JICAアジア研修員との交流活動	小川 雅由	西宮市役所東館
2012.07.15	農を通じた総合的な人間力形成プログラム④	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2012.07.19	ESD講義⑦	小川 雅由	LEAF事務局
2012.07.24	賀川豊彦に学ぶ日本の権利獲得運動についての学び	小川 雅由	賀川記念館
2012.07.28	こども農業塾の支援と見学	久世 竜	甲山神呪寺農地
2012.07.29	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑤	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地

2012年前期 インターンシップⅢ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2012.08.09	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑥	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2012.08.21	ESD講義⑧	小川 雅由	LEAF事務局
2012.08.23	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑦	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2012.08.24	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑧	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2012.08.27	ラジオ番組での留学生による報告	小川 雅由	さくらFMスタジオ
2012.08.30	環境省、ハウス食品株式会社訪問（企業のCSR活動についての学び）	小川 雅由	東京都内
2012.08.31	環境省、地球環境パートナーシッププラザ訪問（日本の環境政策についての学び）	小川 雅由	東京都内

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2012.09.01	ハウス食品株式会社イベントの応援活動	小川 雅由	鷺林寺農地、西宮市立社家郷山キャンプ場
2012.09.04	ESD講義⑨	小川 雅由	LEAF事務局
2012.09.11	ESD講義⑩	小川 雅由	西宮市役所東館

## 2012年後期 インターンシップ I

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2012.10.11	ESD講義①	小川 雅由	LEAF事務局
2012.10.16	西宮市新任教員研修の見学	小川 雅由	西宮市立総合教育センター
2012.10.18	ESD講義②	小川 雅由	LEAF事務局
2012.10.20	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑩	小川 雅由	甲山神呪寺農地
2012.10.30	工場内ビオトープ生物捕獲作業 保育所におけるビオトープの改善指導の見学	小川 雅由	アサヒビール株式会社 西宮工場、 西宮市立津門保育所
2012.11.01	にしのみやふるさとウォーク2012 クイズ作成	小川 雅由	LEAF事務局
2012.11.04	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑪	小川 雅由	甲山神呪寺農地
2012.11.06	ESD講義③	小川 雅由	LEAF事務局
2012.11.13	JICA研修(日本の廃棄物施策について)の見学	小川 雅由	西宮市職員会館
2012.11.18	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑫	小川 雅由	鷺林寺農地、甲山神呪寺農地、西宮市立社家郷山キャンプ場
2012.11.19	JICA研修(ごみ組織分析、コープこうべの取組みについて)の見学	小川 雅由	西宮市国際交流協会 会議室
2012.11.22	小学校での環境学習の見学	小川 雅由	西宮市立平木小学校
2012.11.24	仁川の自然を守る活動および海浜におけるごみについての学び	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター、仁川広河原、西宮市立甲子園浜自然環境センター
2012.11.27	にしのみやふるさとウォーク2012 現場下見	松浦 斉美	寿公園
2012.12.01	にしのみやふるさとウォーク2012への参加	松浦 斉美	寿公園～甲子園浜運動公園
2012.12.04	ESD講義④	小川 雅由	LEAF事務局
2012.12.09	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑬	小川 雅由	甲山神呪寺農地
2012.12.18	小学校での環境学習の見学	小川 雅由	甲山周辺、 西宮市立甲山自然環境センター
2012.12.22	神戸女学院大学「地域活性化論」フィールドワークへの参加	長手 聖美	甲山周辺、 西宮市立甲山自然環境センター
2012.12.25	ESD講義⑤	小川 雅由	LEAF事務局
2013.01.06	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑭	小川 雅由	鷺林寺農地、 甲山神呪寺農地
2013.01.08	ESD講義⑥	小川 雅由	LEAF事務局
2013.01.10	ESD講義⑦	小川 雅由	LEAF事務局
2013.01.15	ESD講義⑧	小川 雅由	LEAF事務局
2013.01.20	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑮	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター、 神呪寺農地
2013.01.22	水浄化センターのしくみについての学び	小川 雅由	阪神水道企業団 尼崎浄水場
2013.01.24	昆虫の生態および博物館の展示についての学び	小川 雅由	伊丹市昆虫館

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2013.01.26	甲山湿原を守る活動への参加	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター
2013.01.29	ESD講義⑨	小川 雅由	LEAF事務局
2013.02.09	農を通じた総合的な人間力形成プログラム⑥	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター、神呪寺農地
2013.02.12	ESD講義⑩	小川 雅由	LEAF事務局
2013.02.14	西宮市国際交流デーの準備作業	小川 雅由	LEAF事務局
2013.02.17	西宮市国際交流デーへの参加	小川 雅由	公益財団法人西宮文化振興財団フレンテ西宮
2013.02.19	ESD講義⑪	小川 雅由	LEAF事務局
2013.02.25	2012年度 EWC環境パネル展 設営作業、海外出展作品の展示作業	松浦 斉美	西宮市立西宮市民ギャラリー
2013.02.28	2012年度 EWC環境パネル展の見学	松浦 斉美	西宮市立西宮市民ギャラリー
2013.03.02	エココミュニティ会議交流会への参加	小川 雅由	西宮市立西宮市民ギャラリー
2013.03.03	2012年度 EWC環境パネル展 表彰式への参加、作品撤去作業	小川 雅由	西宮市立西宮市民ギャラリー
2013.03.04	米国バーリントン市におけるESDの推進についての学び	小川 雅由	西宮市役所東館
2013.03.17	アジアン・パーティーへの参加	小川 雅由	西宮市立中央公民館
2013.03.19	環境学習サポートセンターの水槽掃除作業	小川 雅由	西宮市環境学習サポートセンター

2013年前期 インターンシップⅡ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2013.04.11	田植への準備作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.04.15	市民活動カード発送準備作業	松原 暁子	LEAF事務局
2013.04.18	夏野菜の植え付け準備作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.04.22	EWC (Earth Watching Club) エコカード発送準備作業	松原 暁子	LEAF事務局
2013.04.27	環境学習サポートセンターの水槽掃除作業	小川 雅由	西宮市環境学習サポートセンター
2013.05.03	西宮市貝類館イベント支援活動	小川 雅由	西宮市貝類館
2013.05.12	夏野菜の植え付け準備作業	久世 竜	甲山神呪寺農地
2013.05.14	ESD講義①	小川 雅由	LEAF事務局
2013.05.19	ハウス食品株式会社主催イベント(食と農と環境の体験教室)への参加	小川 哲生	甲山農地
2013.05.26	廣田神社での自然観察会の見学	片山 翠	廣田神社
2013.05.28	LEAF定例総会の傍聴	小川 雅由	西宮市立勤労会館
2013.06.01	こども農業塾での農体験活動の支援活動	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.06.04	ESD講義②	小川 雅由	甲山神呪寺農地
2013.06.08	大阪湾生き物一斉調査への参加	小川 雅由	香櫨園浜
2013.06.11	ESD講義③	小川 雅由	LEAF事務局
2013.06.22	JICA研修員と自然保護地区でのプラスチック弾回収活動への参加	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター、仁川広河原周辺
2013.06.27	民間企業における3Rの取組みについての学び	小川 雅由	株式会社リリーフ、マツダ株式会社
2013.06.29	夏野菜の手入れ、草抜き作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.07.04	田んぼの除草作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2013.07.06	ESD講義④	小川 雅由	LEAF事務局
2013.07.09	ESD講義⑤	小川 雅由	LEAF事務局
2013.07.13	夏野菜の手入れ作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.07.15	ハウス食品株式会社主催イベント(食と農と環境の体験教室)への参加	久世 竜	甲山農地
2013.07.18	ESD講義⑥	小川 雅由	LEAF事務局
2013.07.23	ESD講義⑦	小川 雅由	LEAF事務局
2013.07.28	西宮市貝類館イベント支援活動	片山 翠	西宮市貝類館

## 2013年前期 インターンシップⅢ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2013.08.02	ESD講義⑧	片山 翠	西宮市子育て総合センター
2013.08.03	こども農業塾での農体験活動の支援	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.08.04	西宮市貝類館イベント支援活動	片山 翠	西宮市貝類館
2013.08.08	夏野菜の手入れ作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.08.10	貝を使ったアクセサリー作りの補助作業	片山 翠	浜脇児童館
2013.08.19	貝類館教員研修の見学	片山 翠	西宮市貝類館
2013.08.20	ハウス食品株式会社訪問、3R International Conferenceへの参加	小川 雅由	東京都内
2013.08.21	株式会社損害保険ジャパン、国立教育政策研究所訪問	小川 雅由	東京都内
2013.08.25	夏野菜の手入れ作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.09.01	ハウス食品株式会社主催イベント(食と農と環境の体験教室)への参加	久世 竜	甲山農地
2013.09.06	ESD講義⑨	小川 雅由	LEAF事務局

## 2013年後期 インターンシップⅠ

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2013.10.03	イントロダクション	長手 聖美	LEAF事務局
2013.10.13	農作業プログラム(稲刈りとサツマイモ掘り)の実施	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.10.17	ESD講義①	小川 雅由	LEAF事務局
2013.10.22	西宮市新任教員研修の見学	小川 雅由	西宮市総合教育センター
2013.10.29	ESD講義②	小川 雅由	LEAF事務局
2013.11.04	JICA研修(自治体における廃棄物管理の概要)への参加	小川 雅由	西宮市総合教育センター
2013.11.05	にしのみやふるさとウォーク2013 現場下見 にしのみやふるさとウォーク2013 クイズ作成 にしのみやふるさとウォーク2013 打合せ会議への参加	竹田 明子	甲子園駅周辺、 LEAF事務局、 西宮市立中央公民館
2013.11.08	LEAF理事会への参加と交流	小川 雅由	西宮市立勤労会館
2013.11.14	甲山神呪寺農地での作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.11.19	JICA研修(保育所における取組み)の見学	長手 聖美	西宮市立学文殿保育所
2013.11.21	ESD講義③	小川 雅由	LEAF事務局
2013.11.24	ハウス食品株式会社主催イベント(食と農と環境の体験教室)への参加	小川 雅由	鷺林寺農地
2013.11.25	小学校での環境学習の見学 にしのみやふるさとウォーク2013 クイズ作成作業	松原 暁子	廣田神社、 LEAF事務局
2013.11.28	ESD講義④	小川 雅由	LEAF事務局
2013.11.30	にしのみやふるさとウォーク2013への参加	小川 雅由	西宮市南部
2013.12.02	ESD講義⑤	小川 雅由	LEAF事務局

実施日	講義内容	担当者	実施場所
2013.12.05	甲山神呪寺農地での作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2013.12.07	神戸女学院大学「地域活性化論」フィールドワークへの参加	長手 聖美	鷲林寺農地
2013.12.10	ESD講義⑥	小川 雅由	LEAF事務局
2013.12.17	西宮市におけるゴミ処理のしくみについての学び	小川 雅由	西宮市西部総合処理センター
2013.12.22	甲山神呪寺農地での作業	久世 竜	甲山神呪寺農地
2014.01.09	ESD講義⑦	小川 雅由	LEAF事務局
2014.01.16	甲山神呪寺農地での作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2014.01.18	農地ボランティアなどとの交流活動	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター
2014.01.25	甲山湿原を守る活動への参加	小川 哲生	西宮市立甲山自然環境センター
2014.01.26	甲山神呪寺農地での活動	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2014.02.01	甲山湿原を守る活動への参加	小川 雅由	西宮市立甲山自然環境センター
2014.02.04	ESD講義⑧	小川 雅由	LEAF事務局
2014.02.06	甲山神呪寺農地での作業	久世 竜	甲山神呪寺農地
2014.02.07	環境省主催ESD教員研修の見学	小川 雅由	西宮市立勤労青少年ホーム
2014.02.10	ESD講義⑨	小川 雅由	LEAF事務局
2014.02.16	甲山神呪寺農地での作業	小川 哲生	甲山神呪寺農地
2014.02.19	西宮市保育士研修の見学	小川 雅由	西宮市役所
2014.02.20	甲山神呪寺農地での作業	久世 竜	甲山神呪寺農地
2014.02.23	西宮市環境まちづくりフォーラムの見学	小川 雅由	西宮市役所東館
2014.02.24	2013年度 EWC環境パネル展 設営作業と作品展示作業	松原 暁子	西宮市立西宮市民ギャラリー
2014.02.26	2013年度 EWC環境パネル展への参加	松原 暁子	西宮市立西宮市民ギャラリー
2014.03.01	2013年度 EWC環境パネル展への参加 エココミュニティ会議交流会への参加	松原 暁子	西宮市立西宮市民ギャラリー
2014.03.02	2013年度 EWC環境パネル展 表彰式への参加 2013年度 EWC環境パネル展 作品撤去作業	松原 暁子	西宮市立西宮市民ギャラリー
2014.03.09	3R国際シンポジウム 設営準備ボランティア参加	小川 雅由	京都大学
2014.03.10	3R国際シンポジウム 運営補佐ボランティア参加	小川 雅由	京都大学
2014.03.11	3R国際シンポジウム 運営補佐ボランティア参加	岸本 奈都子	京都大学
2014.03.12	3R国際シンポジウム 運営補佐ボランティア参加	岸本 奈都子	京都大学
2014.03.19	鳥獣特別保護区 甲子園浜の現状についての学び	小川 雅由	西宮市立甲子園浜自然環境センター
2014.03.20	環境学習都市宣言10周年記念シンポジウムへの参加	小川 雅由	西宮プレラホール
2014.03.23	神呪寺農地での作業	小川 哲生	神呪寺農地



後期「フィールドワーク」(2単位)

Autumn semester : Fieldwork (2 credits)

担当教員 武中 桂

実地体験の1つの本科目では、春休み期間を利用してESDに積極的に取り組む国内の現場を訪問し、現地担当者(行政、NPO法人、民間団体、地域住民など)との交流を通して、ESDの実践を体験することから、履修生各人がESDについて理解を深めることを目標とする。沖縄県国頭郡国頭村(東日本大震災以前は、宮城県石巻市北上町)をフィールドに、行政訪問で地域概要を捉え、地域行政の環境問題に対する取り組みや姿勢を理解する。さらに、先駆的にESD活動を展開するNPO法人の提供するプログラムを実際に体験し、活動の仕組みを学び、地域社会においてNPO法人や民間団体が果たす役割ならびに果たすことのできる役割について理解を深める。現地スタッフとの意見交換も交えながら、ESDを推進する実践力を養う。

### 2010年度

実施日: 2011.02.18 ~ 20

実施場所: 宮城県石巻市北上町

引率・同行: 武中 桂、北川 真優美

2011.02.18	道の駅 上品の郷訪問 曾呂美自然農場見学 新古里村ほたる会訪問・活動見学
2011.02.19	(有)熊谷産業訪問 北上川河口域にて、ヨシ刈り体験
2011.02.20	ヨシ門松づくり



### 2011年度

実施日: 2012.02.16 ~ 18

実施場所: 沖縄県国頭郡国頭村

引率・同行: 武中 桂、Teresita Ramos Perez、吉田 晃子

2012.02.16	国頭村役場訪問 NPO法人 国頭ツーリズム協会訪問 やんばる学びの森にて、プログラム体験(ナイトウォーク)
2012.02.17	NPO法人 国頭ツーリズム協会によるレクチャー受講 国頭村比地集落の散策(ガイドツアー) 環境省やんばる野生生物保護センター訪問 NPO法人 国頭ツーリズム協会スタッフとのディスカッション
2012.02.18	やんばる学びの森にて、プログラム体験(デイウォーク) 辺野古見学 牧志公設市場見学



## 2012年度

実施日：2013.01.31～02.02

実施場所：沖縄県国頭郡国頭村

引率・同行：武中 桂、吉田 晃子

2013.01.31	国頭村役場訪問 NPO法人 国頭ツーリズム協会訪問 やんばる学びの森にて、プログラム体験（デイウォーク） NPO法人 国頭ツーリズム協会によるレクチャー受講
2013.02.01	国頭村比地集落の散策（ガイドツアー） 環境省やんばる野生生物保護センター訪問 NPO法人 国頭ツーリズム協会スタッフとのディスカッション
2013.02.02	辺野古見学 牧志公設市場見学



## 2013年度

実施日：2014.01.27～29

実施場所：沖縄県国頭郡国頭村

引率・同行：武中 桂、Velma I. Grover、吉田 晃子

2014.01.27	国頭村役場訪問 NPO法人 国頭ツーリズム協会訪問 やんばる学びの森にて、プログラム体験（デイウォーク） NPO法人 国頭ツーリズム協会によるレクチャー受講
2014.01.28	国頭村比地集落の散策（ガイドツアー） 環境省やんばる野生生物保護センター訪問 NPO法人 国頭ツーリズム協会スタッフとのディスカッション
2014.01.29	牧志公設市場見学



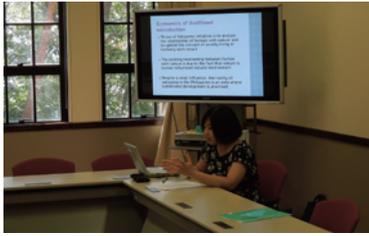
## 学内アウトリーチ活動

日時	行事名	場所	担当
2010年度			
2010.10.21	<b>キックオフシンポジウム</b> 2010年10月、7名の留学生を迎え、2009～2013年度採択 科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点形成プログラム」の本格的なスタートにあたり、学内外公開のキックオフシンポジウムを開催した。 飯 謙学長による挨拶「神戸女学院大学の理念」、加藤 善一審議官（文部科学省 研究開発局）による講演「戦略的環境リーダー育成拠点形成プログラムの概要」、小澤 紀美子教授（NPO法人 こども環境活動支援協会代表理事）による講演「地域から進めるESDの重要性」、小川 雅由氏（NPO法人 こども環境活動支援協会事務局長）による講演「西宮市におけるESD」、西田 昌司教授によるプログラム紹介「ESDプログラムの概要」が行われた。10月よりスタートした実際の講義や実地活動の風景を紹介した後、寺嶋教授より1期ESD留学生7名（中国、マレーシア、インドネシア、ベトナム各1名、フィリピン3名）を紹介した。	神戸女学院 講堂	飯 謙、西田 昌司、寺嶋 正明
2010.10.30	<b>ミニシンポジウム</b> <b>“Environmental Problem in ASEAN Countries”</b> ミニシンポジウム“Environmental Problem in ASEAN Countries”が開催され、海外より5名の講師に来日いただいた。講師の先生方には、“Environmental Problem in ASEAN Countries”というテーマのもとで、各国の状況等についてお話をいただいた。それぞれ今日の環境諸問題に深く関係した内容であったが、その解決を考える際に不可欠となる概念を提示し、その対策について具体的な事例を用いてご説明いただいた。報告後、寺嶋教授が司会を務め、総合討論を行い、質疑応答も活発に展開された。	神戸女学院大学 エミリー・ブラウン 記念館 201号室	寺嶋 正明、Miguel D. Fortes（フィリピン大学、フィリピン）、Maricar S. Prudente（デ・ラ・サール大学、フィリピン）、Gullaya Wattayakorn（チュラロンコン大学、タイ）、Inneke F. M. Rumengan（サムラランギ大学、インドネシア）、Zainal Arifin（インドネシア科学院海洋研究センター、インドネシア）
2010.11.05	<b>金曜日公開プログラム</b> <b>ESDプログラム報告会—環境問題を通してのアジアとの連携</b> <b>「地域からESDを推進する女性環境リーダー」プログラムに</b> <b>留学生を迎えて</b> 2009～2013年度採択 科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点形成プログラム」が、2010年10月より本格的にスタートしたことを踏まえ、学内外に向けて人間科学研究科研究科長 西田教授がプログラム紹介を行った。本プログラムの概要、目的、ミッションステートメント、学内における運営体制などの説明、ならびにカリキュラム実施後、約1ヶ月が経過した時点での現状報告を行った後、実際に2010年10月より本学にてプログラムを履修している留学生も自己紹介を行った。	神戸女学院 講堂	西田 昌司



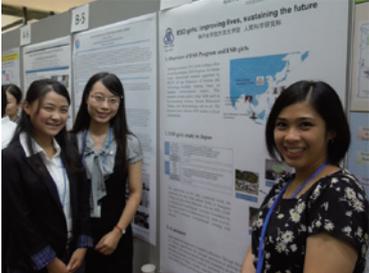
日時	行事名	場所	担当
2010.12.09	<p><b>特別講義</b>  <b>“Environmental Forensics Investigations of Distribution, Sources and Transport Pathways of Micro-organic Pollutants in Malaysian and Southeast Asian Waters”</b></p> <p>マレーシア・ブトラ大学（マレーシア）よりMohamad Pauzi Zakaria教授を講師にお迎えし、本学にて特別講義をしていただいた。1期ESD留学生を中心とする受講者たちはマレーシアならびに東南アジア諸国での有機汚染の現状について理解を深めることができた。講義後の質疑応答の際にも、活発な意見交換がなされた。</p>	神戸女学院大学 理学館 S34号室	寺嶋 正明、Mohamad Pauzi Zakaria (マレーシア・ブトラ大学、マレーシア)
2011年度			
2011.06.10	<p><b>金曜日公開プログラム</b>  <b>ESD留学生研究発表会</b>  <b>“ESD Girls Go Japan”</b></p> <p>1期ESD留学生たちが、学内外に向けて報告を行った。来日以降、講義やインターンシップで学んだこと、カリキュラム受講を通して各人が考えたことを8名全員でパワーポイントにまとめ、2名がメインスピーカーとなりながら報告を進めた。ESDとは何かという概念について説明し、ローカルコミュニティに基づいた実地体験から学んだ「ローカルルール」の存在や、そのような体験に対して自分たちがどのような貢献をしたかということについて、これまでの経験から報告した。生物多様性、コミュニティが持つ権利、子どもたちを対象とした環境教育などがESDにおいては重要であることを指摘した上で、開発途上国出身である自分たちに課せられた役割について考察、言及した。</p>	神戸女学院 講堂	武中 桂、1期ESD留学生
2011.12.08	<p><b>ミニシンポジウム</b>  <b>“Environmental Problem in ASEAN Countries”</b></p> <p>張野教授が司会を務め、ミニシンポジウム“Environmental Problem in ASEAN Countries”が開催された。開催にあたり、2名のゲスト講師、1名の本学招聘教員による研究報告が行われた。第1報告はLe Quang Dung教授による“Assessment of environmental pollution and toxic effects of pollutants on marine organisms in Vietnam coast”、第2報告はGullaya Wattayakorn教授による“Impacts of climate change on coastal areas of Thailand”、第3報告はTeresita Ramos Perez教授による“Bioremediation potential of seaweeds and water hyacinth”である。寺嶋教授が司会を務めて総合討論が行われ、そこでは共通する課題についての質疑応答が行われた。</p>	神戸女学院大学 理学館 S18号室	張野 宏也、Le Quang Dung（海洋環境資源研究所、ベトナム）、Gullaya Wattayakorn（チュラロンコン大学、タイ）、Teresita Ramos Perez（アテネオ・デ・マニラ大学、フィリピン）

日時	行事名	場所	担当
2012年度			
2012.06.15	<b>金曜日公開プログラム ESD留学生研究発表会 “Think Globally, Act Locally”</b>	神戸女学院 講堂	武中 桂、2期ESD留学生
	<p>2期ESD留学生たちが、学内のみならず学外、広く一般にも公開された場において“Think Globally, Act Locally”というタイトルで報告を行った。来日以降、講義やインターンシップで学んだこと、カリキュラムの受講を通して各人が考えたことについて、6名それぞれが報告した。「農作物を自分で育てること」「環境に優しい技術のこと」「安全・環境に関する研修に参加すること」「自然環境を保護すること」「自発的に知識を深めること」「自分たちの権利を啓発し、調和的に生きること」が、主な報告内容である。留学生たちは、これらのトピックから、「ESDとは人間のことだけではなく、生物多様性を守ること、環境汚染を抑制すること、調和的社會を導くことにも関係している。そのため、国境を越えて考え、互いの文化を理解し合い、日常生活に反映していくことが大切である」という結論を導いた。</p>		
	  		
2012.09.07	<b>ESD Program Final Presentation Meeting 2012</b>	神戸女学院大学 エミリー・ブラウン 記念館 101号室	遠藤 知二、武中 桂、2期ESD留学生
	<p>2011年度日本の環境とその保全 I ならびに2012年度日本の環境とその保全 II の担当講師の先生方にお集まりいただき、2期ESD留学生6名が学内・学外向けに報告を行った。「1年間のESDプログラムで何を学んだか」について6名各々の専門分野の視点から報告し、それぞれの報告に対して参加者（先生方、ESD留学生、本学大学院生）から質問があった。異なる分野からの質問を受け、留学生たちはそれぞれ知見を広げることができた。6つの報告が終わった後にはフリーディスカッションの時間を設け、参加者全員による活発な議論が展開された。</p>		
	  		
2013年度			
2013.06.21	<b>金曜日公開プログラム ESD留学生研究発表会 “ESD Girls : Improving Lives, Sustaining the Future”</b>	神戸女学院 講堂	武中 桂、3期ESD留学生
	<p>3期ESD留学生たちが、学内のみならず学外、広く一般にも公開された場において“ESD Girls: Improving Lives, Sustaining the Future”というタイトルでの報告を行った。来日以降、講義やインターンシップで学んだこと、カリキュラム受講を通して各人が考えたことについて、5名それぞれが報告した。</p> <p>1年を通しての講義、インターンシップ活動（行政との協働、教育機関との連携、農作業など）、フィールドワークや工場見学、博物館見学から自分たちが何を学んだか、どのような問題意識を持ち、それに対してどのような回答を導いたか、について各人が報告をした。3期ESD留学生たちは、これらの問いに対して、各々自分の専門分野にひきつけながら報告し、「ESDの普及推進のためには、まず自分たち自身の日常生活を見直すこと」「各々が出身国に戻った際には、より日常に寄り添った形での環境リーダーとなること」を自らの課題として提示した。</p>		
	  		

日時	行事名	場所	担当
2013.09.09	<b>ESD Program Final Presentation Meeting 2013</b>	神戸女学院大学 エミリー・ブラウン 記念館 101号室	遠藤 知二、武中 桂、3期ESD留学生
	<p>2012年度日本の環境とその保全 I ならびに2013年度日本の環境とその保全 II の担当講師の先生方にお集まりいただき、3期ESD留学生5名が学内・学外向けに報告を行った。「1年間のESDプログラムで何を学んだか」について5名各々の専門分野の視点から報告し、それぞれの報告に対して参加者（先生方、ESD留学生、本学大学院生）からの質問があった。異なる分野からの質問を受けたことによって、留学生たちはそれぞれ知見を広げることができた。5つの報告が終わった後にはフリーディスカッションの時間を設け、参加者全員による活発な議論が展開された。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
2013.11.16	<b>ESDプログラムシンポジウム                      “Local Community, Woman, and ESD: Networks Linking Asia and Japan”</b>	神戸女学院大学 エミリー・ブラウン 記念館 202号室	遠藤 知二、寺嶋 正明、武中 桂
	<p>本ESDプログラムを総括するシンポジウムを開催した。                      午前、午後の2部構成にて行った本シンポジウムでは、冒頭にて本学 飯学長が挨拶をし、ご来賓に河野昌弘西宮市長、山下廣順プログラム主管（独立行政法人 科学技術振興機構）、登壇者に平川 伸明氏（一般財団法人 日本国際協力センター）、海外の大学教授陣（アテネオ・デ・マニラ大学 Teresita Ramos Perez教授、サムラランギ大学 Inneke F.M. Rumengan教授、ダナン大学 Hoang Hai教授、華南師範大学 Gao Lingbiao教授）、小川 雅由氏（NPO法人 こども環境活動支援協会）、長手 聖美氏（同）、ESDプログラム1期修了生Alma Bernadette L. Regalado氏をお迎えした。                      午前の部（ESDプログラムの成果から女性環境リーダーの役割を考える（Reconsidering Roles of Women Environmental Leaders with Looking Back Activities of ESD Program）／司会 遠藤 知二教授）では、フィリピン、インドネシア、ベトナム、中国、日本における「女性環境リーダーの果たす役割」について比較検討した。午後の部（地域・女性・ESD 日本とアジアを結ぶネットワーク（Local Community, Woman, and ESD : Networks Linking Asia and Japan）／司会 寺嶋 正明教授）では、本学より遠藤 知二教授、Velma I. Grover客員准教授、武中 桂特任助教の3名も報告を行った。日本国内のESDの実践事例を用いながらの報告やESDをめぐる国際的な事情についての報告を受け、ESDと女性、ESDと地域社会の関係を軸としたテーマや、現在のESDプログラムの意義、今後のESDプログラムの展開可能性についても議論を深めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
2014.03.28	<b>特別講義                      “Pollution of hazardous chemicals in the coastal marine environment and their ecological effects”</b>	神戸女学院大学 メアリー・アンナ・ ホルブルック記念館 202号室	張野 宏也、Ahmad Bin Ismail（マレーシア・ブトラ大学、マレーシア）
<p>マレーシア・ブトラ大学（マレーシア）よりAhmad Bin Ismail教授を講師にお迎えし、本学にて特別講義をしていただいた。環境汚染を考えたとき、現代では化学物質汚染が最も重要課題であり、汚染の現状把握および修復するためには東南アジアと日本とで共同研究を行うことが必要である（特にマレーシアでは、水銀汚染が深刻であり、マングローブ域や藻場でも汚染されている）ということを報告された。これらの調査を継続する必要があるのと同時に、これからの未来を担う若い世代に汚染の現状を認識してもらうため、日本と東南アジア間での学生交流が必要であるということで締めくくられた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>			

学外アウトリーチ活動

日時	行事名	場所	担当
2010年度			
2010.09.09	<b>第13回日本水環境学会 「アジア・アフリカとの協働による環境リーダー育成のための 国際拠点形成事業」シンポジウム</b>	京都大学 吉田キャンパス	西田 昌司、武中 桂
	西田 昌司教授が、「地域からESDを推進する女性環境リーダーの育成」というタイトルで報告した。本学同様に文部科学省による助成を受けて展開している他大学の環境リーダープログラムについての報告も聞き、ディスカッションでは相互のプログラムの充実を図るために意見交換も行った。		
2011年度			
2011. 08.29 - 09.01	<b>フィールドスタディ</b>	青森県西津軽郡 鯉ヶ沢町	武中 桂
	法政大学人間環境学部（担当・西城戸 誠教授）の学生との合同で実施した。本フィールドスタディでは現地踏査、実地体験（リンゴ栽培、草鞋作りなど）、地元企業の訪問などを通して当該地におけるバイオマス事業の展開、再生可能エネルギーの可能性、環境に配慮した生活のあり方、世界自然遺産と地域社会との関係性、ならびにESDの展開可能性についてさまざまな角度から学び、理解を深めた。		
			
2012.03.12	<b>第1回環境人材育成研究交流大会</b>	慶応義塾大学 湘南藤沢キャンパス	武中 桂
	武中特任助教が「地域からESDを推進する女性環境リーダー」というタイトルで報告した。環境人材育成にかかわる他大学の取組みや一般企業の取組みについての報告を聞き、理解を深めた。		
2012年度			
2012.11.18	<b>第6回HESDフォーラム</b>	京都大学 吉田キャンパス	武中 桂
	武中特任助教が“Woman Leaders Promoting ESD Based on Local Community”というタイトルで報告した。他大学で実施・運営しているESDにかかわるプログラムについての報告も聞き、理解を深めるとともに、関係者同士での意見交換も行った。		
2012.11.29	<b>第49回環境工学研究フォーラム 「環境研究・教育の海外展開に関する特別セッション」</b>	京都大学 百周年時計台記念館	遠藤 知二、武中 桂
	遠藤教授と武中特任助教が出席し、武中特任助教が「地域からESDを推進する女性環境リーダーの育成」というタイトルで報告した。同時に、同タイトルでのポスター発表も行った。本学と同様の文部科学省による助成を受けて環境リーダープログラムを実施している他大学とのディスカッションもあり、理解を深めることができた。		
2012.12.13	<b>第2回環境人材育成研究交流大会</b>	TFTビル（東京都）	武中 桂
	武中特任助教が「『地域からESDを推進する女性環境リーダー』プログラム」というタイトルで報告した。環境人材育成にかかわる他大学の取組みや一般企業の取組みについての報告を聞き、理解を深めた。		
2013年度			
2013.06.09	<b>第5回 武庫川お掃除会</b>	武庫川河川敷	張野 宏也、3期ESD留学生
	武庫川流域圏ネットワークが主催する武庫川河川敷でのクリーンアップ活動に留学生が参加した。実際に市民活動に参加することによって、日本における市民活動のあり方、活動の展開方法や困難さについての理解につながった。「参加者」として本活動に関わることで、活動そのものについてだけでなく、他の参加者との交流、意見交換などを行うことができた。		
			

日時	行事名	場所	担当
2013.09.14	<p><b>環境リーダープログラム合同会議2013</b></p> <p>武中特任助教と3期ESD留学生（内3名）が出席した。武中特任助教が「『地域からESDを推進する女性環境リーダー』のこれまでとこれから」というタイトルで報告、3期ESD留学生が“ESD girls: improving lives, sustaining the future”というタイトルでポスター発表を行った。本学同様に文部科学省による助成を受けて環境リーダープログラムを展開している他大学の報告も聞き、関係者間および学生同士での意見交換も実施した。</p>	<p>筑波大学 東京学舎</p>	<p>武中 桂、3期ESD留学生</p>
			
2013.12.13	<p><b>第3回アジア環境人材育成研究交流大会</b></p> <p>武中特任助教が「ESDプログラムからの学び」というタイトルで報告した。環境人材育成にかかわる他大学の取組みや一般企業の取組みについての報告を聞き、理解を深めた。</p>	<p>TFTビル（東京都）</p>	<p>武中 桂</p>

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

3

# 招聘教員からの報告



KOBE COLLEGE GRADUATE SCHOOL

## -1 The ESD program of Kobe College, Japan

2011.10～2012.09

めぐみ教育基金招聘教授

アテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)教授

Teresita Ramos Perez



The world today is faced with environmental issues brought about by anthropogenic activities since industrial revolution commenced. The ecological services of land, water and air have been compromised. The economic services of these ecosystems such as shelter, food, medicine among others continuously support the demands of the growing population despite the degradation of the terrestrial and aquatic habitats. Ecosystem imbalance has resulted in extreme weather events such as drought, excess rainfall and very low or high atmospheric temperatures.

Women comprise half of the world's population with a significant role in bearing and rearing the next generations. This sector of the society contributes to food security and protects the sustainability of these ecosystems to support the needs of the growing children.

The global initiatives for environmental education is a necessary step to mitigate the present environmental issues. The role of the women is crucial in promoting this world wide program. The Asian women are still struggling from the remnants of bonds of a feudal system but now have opportunities for education and develop their chosen careers. In part of the world, the voices of women are heard from various arena such as local politics, academe, government and non-governmental set ups.

The Education for Sustainable Development (ESD) program offered by Kobe College is a significant step to contribute to the global initiative in the protection of the world's resources from further degradation. In cognizant of the role of women in the society, education of women leaders from this part of the world is has been initiated by Kobe College to contribute in this world wide program.

The ESD program funded by the Japanese government with counterpart from Kobe College has identified women graduate students from China, Indonesia, Korea, Malaysia, Philippines and Vietnam to be scholars for a year in the ESD program of the College. Together with the Japanese students, the chosen representatives study and interact together.

The curriculum provides the students a perspective of global environmental scenarios as well as realities of the issues of habitat degradation in Asia. Aside from the strong scientific background provided to them to comprehend the issues, the socio economic aspects of the problems is taken care of to provide a holistic training. This is facilitated by lectures from Kobe College professors and others Japanese universities as well as experts from government and non-governmental sectors of the country. This set up is also supplemented by video conferencing from professors of other Asian countries. Interactions between the lecturers and the students takes place after the lectures through questions and answers.

Field trips to industries to observe best practices in environmental management is a part of the curriculum. Exposure and interaction of the students to the local community and schools is facilitated by the partner NGO as well as direct interaction with the earth through sustainable farming.

Traditional knowledge in sustainable development in Okinawa is an exciting component of program. All these, as well as wholesome exchange of experiences among Asean students provided a venue for the holistic formation of the future women leaders with a common goal in the sustainable use the resources in this part of the world.

A review of the ESD program was performed with views of the other Asian professors considered. It was in general successful and was able attain the objectives set since it started with the first batch of students. Comments though based on assessment have to be incorporated to further enhance this program.

I strongly support and endorse the incorporation of the ESD program of Kobe College in the long range vision of the Japanese government for its nation as well as the rest of Asia to further attain the sustainability of their resources.



2013.10～2014.09

ブライアント・ドレイク客員准教授

Velma I. Grover

### INTRODUCTION: WHAT IS ESD

Education for sustainable development (ESD) is inter-disciplinary and constitutes formal, informal and non-formal education. Based on the principles that define sustainable development ESD builds local capacity by promoting development of skills, critical thinking and participatory learning that is locally relevant and culturally appropriate<sup>1</sup>.

As defined by UNESCO<sup>2</sup>

- ESD allows every human being to acquire the knowledge, skills, attitudes and values necessary to shape a sustainable future<sup>2</sup>.
- ESD means including key sustainable development issues into teaching and learning; for example, climate change, disaster risk reduction, biodiversity, poverty reduction etc.
- It also requires participatory teaching and learning methods that
  - motivate and empower learners to change their behavior and
  - to take action for sustainable development.
- ESD promotes competencies like critical thinking, imagining future scenarios and making decisions in a collaborative way.

### ESD AT KOBE COLLEGE

ESD program at Kobe College is an excellent program. It is one of the unique programs, which brings together a good mix of Asian students as well as Asian guest professors. Since women play an important role in protecting and preserving environment (as they are the natural users of the natural resources) and also help educate next generation, investment in educating future women leaders is a worthy investment.

The courses such as “Environmental Issues and ESD progress in Asia” and “Environmental Issues and ESD progress in Japan” expose the students to problems in different Asian countries. Since the Professors not only come from different Asian countries but also from different disciplines it makes the program multi-disciplinary as well. This helps students to understand the environmental problems both from a regional perspective and also at country level. It gives a broad picture of environmental problems for better understanding of environmental issues at regional level as well as local levels which deepens the understanding of the linkages of environmental problems at a level beyond man-made boundaries (i.e. air and water pollution do not respect man-made political boundaries). This also fosters a network among Japanese students and students from other Asian countries (future environmental leaders) which can be helpful in solving issues such as trans-boundary water/air problems at a regional/continental level.

Site visits (to Japanese industries) and internship programs are also strong points of the ESD platform. This experience gives visiting students knowledge about Japanese technology and also hands-on experience helps in developing skills needed at workplace in addition to the theoretical knowledge gained in classes. ESD program at Kobe College, thus achieves ESD in real sense by providing both in class and in field experience to students from multi-disciplinary perspective.

### MY EXPERIENCE

I have experienced ESD in Japan in three ways: through site visits to companies and Okinawa, by listening to lectures by Professors from other Asian countries, and by teaching ESD related courses (since the student's participation broadens the teacher's perspective as well). Visit to the Japanese companies offered me an insight into the different approaches to control environmental pollution and the technologies available. Visit to Okinawa is an invaluable learning experience (and a great addition to the ESD program) as it provides an excellent example of using traditional and indigenous knowledge to achieve sustainable development.

In the short period I have been at the Kobe College, one of the courses I have taught is on “Water: Principles, Issues and Management”. The course covered various principles and water problems faced by both developed and developing countries. Course also introduced some management options to solve current water issues.

Another strength of having students from different Asian countries and background (environmental science, geography, technology, architecture) is that some activities such as “presentation of environmental issues from their respective countries” introduces them to current environmental issues in different Asian countries but also helps to develop their communication skills. Since students have varied background – the questions asked come from different perspective and makes the discussion multidisciplinary.

Simulation-role-play exercises used in the class not only introduces the students to real life situations in solving water problems (especially trans-boundary water problems) but also helps improve their communication and negotiation skills. It has been an interesting process to help students open up to ask questions after these exercises, and also when doing their assignments they can relate to the problems which arise during role play exercises (for example when trying to allocate water among different countries).

Overall, I think Kobe College has selected a good group of students who are enthusiastic to learn which makes teaching more rewarding. And Japan is providing an excellent medium to improve the fate of mankind in general and that the inhabitants of Asia in particular.

## WAY FORWARD

Maybe to move forward, Kobe College should explore the possibility of changing the certificate program into a degree program which will give the program more credibility and help attract more Japanese students as well as students from other Asian countries.

Also, internship program can be expanded from working with only an ENGO and at community level to include experience of working with the local level government, environmental consulting firms and industries to broaden the experience gained in Japan. Probably, the college can start a sustainability office as a central place to coordinate all the environmental activities on campus and students can be engaged in leading those activities which will help both the college as well as the students.

The program has a good potential to train future environmental leaders and should be continued to train Asian women environmental leaders.

<sup>1</sup> <http://www.unesco.org/new/en/education/themes/leading-the-international-agenda/education-for-sustainable-development/education-for-sustainable-development/>

<sup>2</sup> <http://www.unesco.org/new/en/education/themes/leading-the-international-agenda/education-for-sustainable-development/>

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

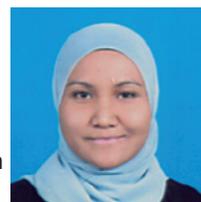
4

学生からの報告



KOBE COLLEGE GRADUATE SCHOOL

## ESD through my eyes

Ainul Marziana Mohamed Mahidin  
(マレーシア、1期生)

I'm grateful to get this lifetime opportunity to experience life in Japan for a year, as one of the trainees with other Asian friends. The 'Women Leaders promoting ESD based on local community' program, conducted by Kobe College Graduate School of Human Science together with NPO LEAF of Nishinomiya, has definitely changed my perspective on certain issues especially environmental education. This program has widened my knowledge, broadened my views and deepened my understanding on related subjects. Beside, I'm still able to exchange information and ideas with other trainees from different countries.

As a Landscape Architecture student, my studies majorly involve landscape design issues and problem solving. Although environmental related subject is part and parcel of my studies, we did not have in-depth study of this subject. Attending classes in Kobe College, gave me an opportunity to widen my knowledge especially on current environmental issues and conditions among Asian countries, and the implementation of ESD especially in Japan.

The most valuable experience and knowledge I gained was through the internship program with LEAF that involved eco-learning activities with children. My research study was about the urban children views and their understanding of the environment especially natural environment, one of the methods that I used was: to observe their behavior and attitudes in Public Park on both natural and man-made settings. The activities conducted by LEAF directly related with my research studies, where I was able to observe how Japanese children responded and reacted to their natural environments. I was impressed with all the activities conducted among children and the impact it has on them. The exposure and experience that I gained through this internship program has deepened my understanding on the concept of ESD. I understand that besides focusing on relationship between human being and nature, relationship among and between people in the society also plays an important role to achieve sustainable development.

I have got this opportunity to report and present my experiences in Japan. I am able to share and spread the idea and understanding of ESD among people that are related with design fields, in my faculty. EE or ESD is closely related with people's experiences; involvement and connection with nature, through this relationship people develop feeling of appreciation and love towards the environment. Therefore I believe that it is important for all designer, or architect to have the basic idea of sustainable development, so they will be able to create an environment that will not disconnect people from natural environment like the current situation.

Currently I am much involved with actually landscape design project on site. With the knowledge I gained, now I am more concerned about the experience that one will get in landscape settings. Although aesthetics is main reason in landscape design, the experience that enables a person to connect with the surroundings has become my major concern. This experience was an indirect EE for both children and adults, which will become the core in achieving SD. It's a challenge for us to incorporate these experiences in a modern, minimal landscape design concept that is high in demand.

## Studying ESD at Kobe College

Sejin An  
(韓国、2期生)



Before I decided to study at Kobe College, I was worried about the contents of ESD program. I hadn't studied about environment field at all however I had realized that we need to study and research this subject area. For this reason, I wanted to apply to ESD program in Kobe College because Kobe College was doing research in ESD and supported environment field study.

Through the ESD program, I have learned a lot of things: local community activities, volunteerism, education, eco technologies of company, government policies etc. in ESD program. The lectures from other countries by E-learning were valuable to learn about culture, environmental problems and solutions in different Asian countries. Additionally lectures from Kobe College also enabled me to understand the efforts of Japan for sustainable development. Looking back on it now, all activities contributed to make it a good experience in my life. I have built up my dream and hope about ESD: I have a plan for education about sustainable development related to food habit, food waste, and healthy food. In this regard, healthy food means health for body as well as nature. Secondly I have been practicing environmental activities such as 3R (reuse, recycle, reduce), doing volunteer work, and learning about my hometown.

Nowadays I work for the company which does research on and develops health functional food products with ginseng and Chinese medicinal plants. During my work at the research center, I always think about how I can minimize and reduce the laboratory waste for environment, especially water pollution. If I didn't learn these things in Kobe College, I would not be thinking about this. The ESD program in Kobe College has influenced my thinking and the way I work in real life.

## My short Essay: ESD Program

Riny Hefriani Modaso  
(インドネシア、2期生)



First of all, I decided to study at Kobe College because the program is an international program for students of some of the Asian countries. ESD program was suitable for my educational background, and the program also enhanced the knowledge in a global manner. The academic curriculum in this program is not merely focused on education in the classroom but also includes fieldwork, research, workshops and internship at local Not for Profit Organizations. Furthermore, Kobe College also provides an opportunity to study the Japanese language and culture so that the International students can experience Japanese way of life.

Through the ESD program I learned the global perspectives about the current situation of natural environment, the major causes of pollution, and framework for addressing the environmental problems. Through various lectures, we were able to understand environmental issues and ESD progress in Japan particularly the state of environmental education in society through the natural science perspectives, biodiversity conservation, monitoring systems and the implementation of ESD. Moreover, I learned a lot about sustainable living to save energy, separation of garbage to maintain the environment. I did not know these facts before coming to Japan. The activities as an intern taught me to preserve the nature and built my capacity to perform diverse activities. The internship showed me that "dedication to sustainable living and community engagement" is a model example of making a positive impact in the society and it encouraged me to improve the quality of live in valuable ways.

These programs showcased the frameworks to promote sustainable living through different approaches in the community. As a person with background in Aquatic science, the knowledge gained can help me to improve the utilization of natural resources and also improve research on aquatic systems. Furthermore, the understandings of ESD helped me understand working of the governments and how to work with the government, although the background studies or disciplines are different but the knowledge, skills and values have to be apply yield in sustainable manner. The experiences in this program gave me passion to continue learning and promoting sustainable development.

## Experience after one year participant ESD program at Kobe College

Phan Hoang Thu Thao  
(ベトナム、3期生)



I would like to thank Kobe College for giving me a chance to attend the ESD program in Japan. It is my pleasure to share my experiences from the year I attended ESD program in Japan and Kobe College.

Firstly, I decided to study in Japan, especially at Kobe College, because Japan is one of most well-known countries on environmental sustainability issues. Furthermore, I was fortunate to get scholarship from ESD program at Kobe College.

Secondly, before I came to Japan, I tried to imagine what I might learn and kind of work I might do here. Then, after coming to Japan, and after attending classes at Kobe College and doing the internship at LEAF, I got some lessons about the ESD program. I developed and improved many skills, such as: presentation, team work, organizing workshops. In addition, although I could not speak Japanese well, I could learn about Japanese culture through LEAF activities. For me, these activities have been so amazing and interesting that it helped me to communicate with Japanese people more easily.

Thirdly, I am now studying at the University of Kitakyushu, with Major in Environmental management. In my opinion, what I learned from ESD program in Kobe College gave me knowledge and skills to continue for my Master's degree. In future, I want to bring lessons learned from implementation of "Environmental Education" in Japan to apply to my hometown — Da Nang city, Vietnam. I hope that children in Vietnam can learn more about environment and understand how to protect the environment.

Finally, ESD program is amazing program that I had an opportunity to participate in. Again, thanks to Kobe College for everything.

## ESD: Is it inclusive enough?

Mary Margaret Therese B. Chavez  
(フィリピン、3期生)



The opportunity to study abroad not only contributes to the intellectual development but is also a training of life skills. With the existence of diversity and multiculturalism, the challenge posed is to learn how to work with different cultures and accept them. The exposure to diversity does not mean to say that cultures compete but a simulation of how global leaders act and react towards dilemma and yet arrive at a civil decision of how the system will be run. However, looking back - the roots of motivation had always been the passion towards development studies. Learning from the Philippine context, the concept of development has been constrained to economic and social development. But it lacks the tie that will bind the two systems which is sustainable development.

Specifically in globalisation, the concept of rights has evolved from state-centric to human-centric as well as the shifts of responsibility and accountability. The focus of sustainable development is the individual and the development of their awareness that each has a role as carer. Carer not only entails to protect the environment but also to instil values and appropriate actions towards the people, systems, and non-state actors. In lieu of furthering the rights of Persons with Disability (PWD), I have recently been involved with the project of the United States Embassy which aimed at observing schools in Luzon Island offering Special Education (SpEd). PWDs are people with cases of visual or hearing impairment; learning and intellectual disability; and cerebral palsy. Development will not be inclusive if our PWD are not able to participate in the development paradigm. The ESD Program places special attention to education as the mover of sustainability. In this regard, the abilities of PWD are increased through education as they learn how to self-care and communicate with other people and the environment.

## 4-2 日本人院生(修了生)

## ESDプログラムでの経験



館田 知美  
(日本、1期生)

日本にいながら、多様なバックグラウンドを持つアジアの留学生達が、Education for Sustainable Developmentという1つの議題について、どのような考えを持っているのか聞くチャンスだと考えこのプログラムを履修しました。

留学生達と話す上では、聞くだけでなく自分の意見を発言することも求められることも多くなりました。日本語ですら考えたことのない内容を相手に伝えなければならないことは容易ではありませんでしたが、日本人だけでは出てこない留学生ならではの意見を聞くことができました。これは私の中で新たな視点を生み出し、自分の中の世界を広げることが出来ました。

新たな視点が芽生えたことを特に感じたのはSustainable Development(持続可能な発展)について留学生達と会話したときでした。それまでは、自分もしくは自分たちという視点からしか環境問題について考えたことがありませんでしたが、その他の視点も含めた、包括的な視点で「持続可能な発展」を考えなければ、真にそれを成し得ることはできず、誰にとっても、何のために必要なのかによって答えは変わります。つまり、一辺倒な意見では通用しないことに気づかされました。

ESDのプログラムを受講しさまざまな背景から生み出される考え方を聞くことで、想像以上に自分が成長出来ました。こういった経験をさまざまな場面で生かしていければと思います。

## 2年間のESDプログラムを通じて



八束 絵美  
(日本、2期生)

年々深刻化する環境問題を解決するためには、持続可能な開発を念頭においた地域の取組みが重要となります。学部生の時からグローバルな環境汚染問題や地域活性に興味を持っていたため、国際的な視点から持続可能な社会構築にむけた活動を紹介し議論する「環境リーダー育成コース」の受講を決めました。

日本人教員による講義とインターネットライブでのアジアの大学教員によるリレー講義から、各国の環境問題の歴史や現状を学び、問題解決にむけどのような対策を行っているのかを知ることができました。さらに企業を訪問し、実際に行われている環境に配慮した活動や開発について学んだり、日本人女性が活躍している環境保全現場で協働することで、女性リーダーのあり方を肌で感じることもできました。

このコースでは日本人学生とアジア各国からの留学生が共に受講しています。最初は自分の語学力に不安があり、積極的に話をすることができませんでしたが、1年間共に学ぶことで、「私たちと同様、留学生にとっても英語は外国語である。英語が得意ではないことを臆するのではなく、積極的に話し、お互い工夫しながらコミュニケーションを取ろう」と思うことができるようになりました。講義時間のみならず日常でも留学生たちと積極的にコミュニケーションを取ることで、各国の環境問題への興味や理解がさらに深まると同時に、自国である日本の環境問題に対する意識も高まるきっかけとなりました。

今後はこの経験を活かし、地域に役立つ人材となれるように努力していきたいと思っています。

## My ESD Study in Japan

Wang Feifei  
(中国、4期生)



Being a teaching assistant of ESD course in my home university, I got access to ESD. During the process, I found that ESD is really important and meaningful. Realizing this, I decided to continue learning ESD. Then luckily I got the opportunity to come to Japan to join the ESD program at Kobe College.

During the study in Japan, I have learned more about ESD. Firstly, the lectures about environmental issues of Japan and other Asian countries have made me aware of the different environmental problems in Asian countries. The lectures include the countries' history, current situation of environment and the efforts that have been made towards solving these environmental issues. These lectures have led me to see environment from a broader perspective. Because of these lectures I am now more aware that we, Asian countries, should cooperate, share information with each other and make efforts together to solve our environmental problems. Secondly, I have benefited a great deal from the arranged internships. There are various activities during the internship, including lectures, teacher trainings, symposiums, farm work and so on. Through the internship, I have got to know that Nishinomiya is an environmental friendly city that has made great efforts to promote ESD. I found that in Nishinomiya the government, NPOs, schools, companies and communities are working together to form a network to promote ESD. Every stakeholder is playing a very important role. I feel honored to join some ESD activities in Nishinomiya. From these activities I realize the importance of cooperation, communication and promoting ESD according to the local situation.

I am very grateful that I joined this program to gain more knowledge about ESD. This special experience has enriched my student life and has broadened my horizon. I have experienced something different from my home country. Truly in Japan there are some good points that are worth our learning. In the future when I return to my home country, I would like to share what I have learned in Japan and I also want to make use of what I have learned to make efforts to promote ESD in my home country.



1期ESD留学生修了式



2期ESD留学生修了式



3期ESD留学生修了式

# 4-4 数字で見る学生の動向

## 留学生の内訳

	2010-2011年度	2011-2012年度	2012-2013年度	2013-2014年度	合計
中国	1	1	2	1	5
マレーシア	1	1	—	—	2
インドネシア	1	1	1	1	4
フィリピン	3	1	1	2	7
ベトナム	2	1	1	1	5
韓国	—	1	—	—	1
合計	8	6	5	5	24

(2014.03現在)

## 受入学生の推移

	2010-2011年度	2011-2012年度	2012-2013年度	2013-2014年度	合計
留学生	8	6	5	(5)	19 (24)
日本人院生	—	1	2	(3)	3 (6)
合計	8	7	7	(8)	22 (30)

\* ( )内数字は予定数

(2014.03現在)

## 修了生の現況

	2010-2011年度		2011-2012年度		2012-2013年度		合計
	留学生	日本人院生	留学生	日本人院生	留学生	日本人院生	
行政機関への就職	2	—	—	—	—	—	2
大学への就職	1	—	2	—	1	2	6
その他教育機関への就職	—	—	1	—	2	—	3
環境関連企業への就職	1	—	2	—	—	1	4
NGOでの活動に従事	1	—	—	—	—	—	1
その他	—	—	—	1	—	1	2
大学院在籍中	3	—	1	—	2	—	6
合計	8	0	6	1	5	4	24

(2014.03現在)



神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

5

# 評価と課題



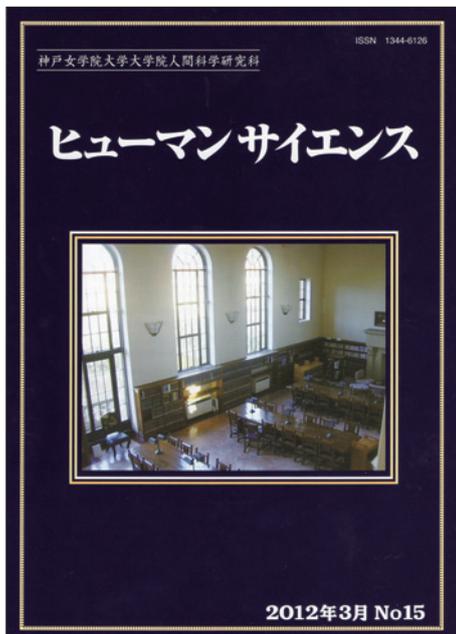
KOBE COLLEGE GRADUATE SCHOOL



人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 教授  
寺嶋 正明

「アジアの環境とその保全Ⅰ」および「アジアの環境とその保全Ⅱ」では教室に設置したインターネットビデオ会議システムを活用したライブ講義を展開した。「アジアの環境とその保全Ⅰ」ではフィリピン、インドネシア、台湾、中国、マレーシア、韓国の大学から現在問題となっている環境問題について、現状とそれを克服する取組みについて講義をしてもらった。授業中に質疑応答の時間を設けたほか、学生の理解を深めるための宿題を出してもらい、メールを通じて、授業を担当した教員とのやり取りを行った。「アジアの環境とその保全Ⅱ」では各地域のESDの現状と課題について講義をしてもらった。いずれの授業もそれぞれの地域の第一線で活躍する大学教員による講義であり、講義全体を受講することにより、アジア全体でどのような環境問題が課題となっており、ESDを含めたどのような取組みが有効であるかを俯瞰的に眺め、理解できるように授業は構成された。成績は英文5ページの期末レポートにより評価した。各地域の講義を担当した教員も本学のESDプログラムに深い理解を示し、講義資料としたパワーポイントのページ数が70-80ページとなるなど、非常に熱心に協力してくれた。

学生たちがアジアのさまざまな地域で同じ課題に向かい合い、解決に向けた努力をしていることを理解し、お互いに連携、協力していくことが重要であることに気づくことができたことがこの講義の成果である。講義を担当した教員からはESDプログラムの継続を望むメッセージが寄せられ、アジアの各地域の大学間で連携協力して、持続可能な社会の構築に向けた人材を養成していくことの重要性を再認識できたことは意義深い。



神戸女学院大学大学院 人間科学研究科『ヒューマンサイエンス』15号での報告  
(2012.03発行)





人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 特任助教  
武中 桂

「日本の環境とその保全Ⅰ」および「日本の環境とその保全Ⅱ」では、学内外の講師の多くの先生方にオムニバス形式にて、英語での講義を担当していただいた。「日本の環境とその保全」では、後期、前期を通して、過去において日本が直面し解決してきたさまざまな公害や環境問題について包括的に学び、学生各人が直面する各々の状況におけるESD活動のための幅広い実践力を身につけることを目標としている。

本科目では1年間を通して、日本における公害問題の歴史とその背景の変遷、日本国内各地でその解決が課題となっている「地球環境問題」の現状と解決方法、日本国内におけるESDおよび市民による環境活動の現状と課題などについて学んだ。環境科学、健康科学、生態学から人文社会学 行動科学、環境教育など多岐の分野にわたる講師陣が講義を担当することにより、履修生は自らの専門分野に関する知識を深めることができるだけでなく、他分野についても「環境」という視点から視野を広げることにつながった。また、学外講師としては大学の先生方のほか、環境省近畿地方事務所、環境省近畿地方事務所神戸自然保護官事務所、公益財団法人地球環境センター、西宮市環境局にも講義をご担当いただき、必ずしも学術的知識だけでは解決を図ることができない環境問題の現状を把握し、環境問題に対する日本行政の取組みについても理解を深めた。そして、毎回講義の最後には担当講師と履修生とのディスカッションを行った。さらに学内での講義の他に、企業の取組みを学ぶ機会として工場見学（住友化学株式会社 大阪工場、サントリープロダクツ株式会社 高砂工場）の見学、学術施設の取組みを学ぶ機会として博物館見学（滋賀県立琵琶湖博物館）もカリキュラムに組込んだ。

講師の先生方には、意欲的に講義、質疑応答に取り組む学生たちの姿勢にご理解いただき、講義後にも各人の専門分野や研究テーマに応じて適宜メール等でのフォローをいただいた。これは担当講師の先生方にとっても学生たちにとってもベネフィットであり、本科目の意義の1つでもあると思う。あわせて、履修生たちにとっては、日本国内の事例から多くのことを学び得ることができたという意味において、非常に意義深いものであったと思う。

本講義においてご尽力いただきました先生方には、改めて感謝申し上げます。



NPO法人 こども環境活動支援協会 (LEAF) 事務局長  
小川 雅由

当協会において担当したインターンシップでは、ESDに関する基礎的な理解とESDの理念に基づいた学びやまちづくりの考え方について実践事例を通じて体験的に学ぶことができるようカリキュラムを構成した。

地域や行政、学校などにおける実践内容や実施時期は、毎年、スケジュールが異なるため、スケジューリングが難しく、座学として実施するESDの基本的な考え方に関する講義と組合せながら毎月の活動計画を設定した。

ESDの考え方については、ユネスコやESD推進省庁連絡会議（環境省、文部科学省などで構成）がまとめた実行計画や国立教育政策研究所からの提案文書などを中心に紹介している。

日本においては、社会の持続可能性を環境面から捉えることが多いが、アジアの留学生では政治的な課題や官僚の汚職、失業などの雇用、貧困問題、教育水準の向上といった課題に対する優先順位が高く、西宮市での実践事例だけでは、留学生が抱える社会的課題に即した学びをサポートすることについては不十分な面もあった。

西宮市では、1992年から始めた環境学習活動「EWC (Earth Watching Club、地球ウォッチングクラブ) 事業」があり、従前より体系的な事業展開が図られており、社会システムとして環境学習やESDをどのように捉えていけばよいかといった点については理解を得られたのではないかと考えている。

なかでも、1998年に当協会と西宮市が共同開発した「エコカードシステム」をベースにした全小学生を対象とした年間を通じた環境学習事業は、今年度で15年を迎えており、地域社会に張り巡らされた「エコスタンプネットワーク」が子どもたちの環境学習やESDにつながる活動を支え続けている。

また、エコカードに加え、中学生以上の市民を対象とした「持続可能な地域づくり市民活動カード」や幼児を対象とした「ちきゅうとなかよしカード」など各世代をつなぐ活動へも発展しており、全市民的な環境学習システムが確立されている全国的にも稀有な事例となっている。

こうした活動が、長年にわたって継続できている社会的な背景としては、西宮市が2003年に環境学習都市宣言を全国で初めて行っていることなどがある。この環境学習都市宣言には、持続可能な社会に向けて行動憲章が設けられている。この行動憲章（「学び合い」「参画・協働」「共生」「循環」「ネットワーク」）に、ESDの重要な要素が含まれており、西宮市内での諸活動をこの行動憲章と関連付け、またESDの理念を体験に学べるよう工夫した。

特に、継続的な体験活動として農作業の場を年間を通じて提供した。これは、持続可能な社会に向けた重要課題として農的生活が自立した個人や社会にとって有用な考え方であることを認識してもらうためである。米づくりや野菜づくり、土づくりなど、本国でも体験した事がない者が大半であったが、ESDを考える上での重要性も理解してもらえたと感じている。

留学生をインターンシップとして受入れたことは、当協会の理事や職員、ボランティア、関連団体などにとっても意識や活動を活性化することにつながり感謝している。



人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 特任助教  
武中 桂

「地域からESDを推進する女性環境リーダー」のカリキュラムには2つの座学と2つの実地体験が設定されているが、実地体験の1つとして位置づけられている「フィールドワーク」では、ESDに関する先駆的な取り組みを実践している日本国内の事例地にて実習を行う。本学ESDプログラムでは履修生（特に留学生たち）がカリキュラムを終えて各々の出身国に帰国した後、各国にてESDを牽引するリーダーとして活躍することを期待している。とりわけ、本プログラムで「知識」として学んできたことをどのように地域社会での「実践」に生かすことができるか、どのような「技法」をもってすれば自らがリーダーとなって一般市民を巻き込みながらESDを推進することが可能か、ということを実体験から学び理解するという意味において、フィールドワークでは「地域住民による取り組み」という点に重きを置いている。

2010年度は、宮城県石巻市北上川河口地域にて実施した。地域の振興、雇用の促進を目的としながら都市と農村との交流にも役立て、活性と安らぎの拠点を形成する手法、一般市民によって開始された地域資源を利用した活動が次第に地域内外の住民を巻き込んだ活動へと発展していくプロセスについて、実際の地域活動への参加や地域住民への聞き取りから学んだ。2011～2013年度は、沖縄県国頭郡国頭村において実施した。まちづくりやまちづくりとESDに関する行政の取り組みを学んだり、地域でさまざまな環境活動を展開する地元NPO法人の提供するプログラムに実際に参加したりすることから、地域ごとに異なるESDの展開可能性について理解を深めた。

いずれの現場での実習においても、地域住民や現地スタッフと学生たちとの意見交換の時間を設けた。そこで展開されるディスカッションは参加する側、参加を受入れる側の双方にとって大変有意義なものになったと思う。と言うのも、参加する側である履修生たちは、本プログラム内のもう1つの実地体験である「インターンシップ」での学びと「フィールドワーク」での体験を比較することで、ESDの展開方法が必ずしも1つのパターンに当てはまるものや、マニュアル通りではないこと、ESDの展開においてはその土地その土地に備わっている地域資源の活用が重要な鍵となること、どのようにして地域資源を発見し、それをどのような形で各々の出身国でのESD推進に活用するかということについての理解につながる。一方で参加を受入れる側には、履修生たち各国のESDの現状についてのプレゼンテーションという形での情報提供を行う。合わせて実習終了後にはプロポーザルを提出し、フィードバックを行っている。

フィールドワークの履修によって、学生たちはESDを推進する技法を理解、習得すると同時に、地域社会とのラポール構築の重要性も理解できるのではないだろうか。これは、地域住民を巻き込みながらのESDの展開可能性を考えるとときの課題とも言えるだろう。本フィールドワークからの学びが、今後、各人が各々の出身国にてESDの推進に携わる際に有意義なものとなることを期待している。

本科目においてご尽力いただきました皆さまには、改めて感謝申し上げます。



人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 教授  
環境リーダー育成プログラム委員会 委員長

遠藤 知二

本プログラムは、アジア各国から環境科学やその周辺分野を学び、「地域からESDを推進する女性環境リーダー」を志向する女子大学院生を受入れ、日本人女子学生とともに1年間の学びを提供するものである。プログラムの当初の計画では、(1)アジア・アフリカ諸国の女子学生を受入れ、環境問題の解決には地域に根ざした活動が重要であることを理解させる、(2)学際的な立場から本学教員を中心とする講師陣によるリレー講義を展開する、(3)必要に応じて本学文学研究科通訳・翻訳コースのOJTとして英語同時通訳を活用し、留学生との議論を活発化する、(4)ESDを推進する西宮市のNPO法人 ことも環境活動支援協会や企業へのインターンシップを通じて、市民レベルでの環境リーダーの役割を実体験する、(5)インターネットビデオ会議システムを用いて、アジアの連携大学の教員による双方向ライブ講義を実施する、(6)このプログラムを通じて若手女性研究者を専門家として成長させる、などの諸点をプログラムの特徴として掲げた。本報告書を通覧していただければ、これらがいかに実現されているかがほぼ了解されるはずである。

その中でも、アジアのさまざまな国から女子大学院生を受入れ、日本とアジアの異なる背景や複数の視点を学ぶ仕組みをつくったことと、環境問題を解決するために日本の先進的な環境技術や環境科学を学ぶだけでなく、日本の社会の中で実践されている市民レベルの活動について体験的な学びを取入れたことが、本プログラムの大きな特徴であり、また成果をもたらしたところだと考えている。例年できるだけ多様な国からの学生を受入れることを目指して、学生募集を行ってきた。院生の学問的な背景についても、環境科学プロパーに限定するのではなく、市民活動や女性環境リーダーに関心をもつ学生を受入れるように努めてきたこともあり、多様なバックグラウンドをもち、学ぶことに熱心な学生たちが各国から集まってきた。このことは、環境問題をさまざまな視点から見つめる際にも有効であり、さらに日本人学生にもよい意味での波及効果があったことは、修了生の報告からもわかる。本プログラムが成功しているとするれば、1つは留学生たちの熱意によるところが大きく、またそのような多様な学生を集め、講師陣として関与してもらうなどの人的な交流とネットワークができたことが、大きな収穫である。また、市民レベルでの環境活動を体験的に学ぶインターンシップやフィールドワークは、留学生にとっておそらくもっともインパクトの強い内容だっただろう。ESDを推進するのにもっとも実効的なスケールであると思われる地域での問題を、国や個人といったスケールの中で相対化し、どのように活動を展開していけばいいのかについて、身をもって体験し考える機会を持てたことは、留学生が帰国してからの大きな財産になったと思われる。

もちろん、課題も残っている。当初可能性を模索していたダブルディグリーは、年限の問題から現行プログラムでは見送らざるを得なかった。この問題をどうクリアするかは今後の大きな課題であり、ダブルディグリーだけでなく、本学とアジアの連携大学とのジョイントディグリーの可能性も探る必要がある。また、現在は他の研究科の協力も得ているが、人間科学研究科が実施するプログラムとなっている。ESDは人権や女性の社会参画、貧困など多岐にわたる問題を視程に入れなければ、進まない。さらに広いパースペクティブをもって全学的に取組めるような体制をつくることは、今後の大きな課題であろう。こうした将来の姿を見据えながら、いままで培ってきたネットワークを活用してプログラムを前進させていくことが必要である。

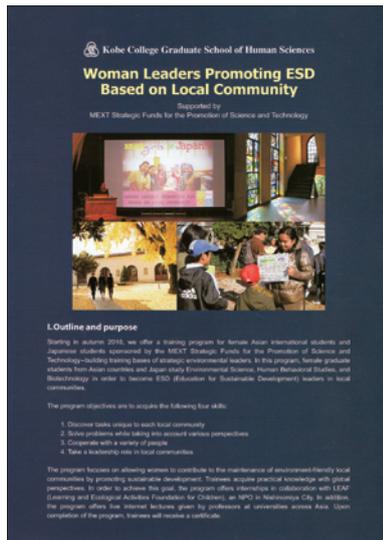
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

6

資料



KOBE COLLEGE GRADUATE SCHOOL



ESDプログラム パンフレット



ESDプログラム キックオフシンポジウム案内  
2010.10.21実施



ESDプログラム キックオフシンポジウム プログラム  
2010.10.21実施



金曜日公開プログラム (ESDプログラム報告会) 案内  
2010.11.05実施



金曜日公開プログラム (ESD留学生研究発表会) 案内  
2011.06.10実施

**ESD学生研究発表会**  
**- Think Globally, Act Locally! -**  
**神戸女学院大学大学院人間科学研究科**  
 (ESD: Education for Sustainable Development 持続可能な発展のための教育)  
 文部科学省 科学技術戦略推進費助成プログラム



**6月15日(金)**  
**10:35-11:25**  
 場所 神戸女学院 講堂



【問い合わせ先】  
 神戸女学院大学  
 〒662-8505 西宮市岡田山4番1号  
 宗教センター（チャレン室）MAIL: cac@mail.kobe-c.ac.jp  
 TEL: 0798-51-8502 / FAX: 0798-51-8501  
 人間科学部 ESD推進室  
 TEL/FAX: 0798-51-8591

・ 入場無料・申込不要  
 ・ マイカーでのご来場は、ご遠慮下さい。

 **金曜日公開プログラム**

金曜日公開プログラム (ESD留学生研究発表会) 案内  
 2012.06.15実施

**ESD留学生研究発表会**  
**- ESD Girls: Improving Lives, Sustaining Future -**  
**神戸女学院大学大学院人間科学研究科**  
 (ESD: Education for Sustainable Development 持続可能な発展のための教育)  
 文部科学省 科学技術戦略推進費助成プログラム



**6月21日(金)**  
**10:35-11:25**  
 場所 神戸女学院 講堂



【問い合わせ先】  
 神戸女学院大学  
 〒662-8505 西宮市岡田山4番1号  
 宗教センター（チャレン室）MAIL: cac@mail.kobe-c.ac.jp  
 TEL: 0798-51-8502 / FAX: 0798-51-8501  
 人間科学部 ESD推進室  
 TEL/FAX: 0798-51-8591

・ 入場無料・申込不要  
 ・ マイカーでのご来場は、ご遠慮下さい。

 **金曜日公開プログラム**

金曜日公開プログラム (ESD留学生研究発表会) 案内  
 2013.06.21実施

Symposium in Kobe College  
**“Environmental Problem in ASEAN Countries”**  
 at Kobe College, 30 October 2010

1300-1310: Welcome Remarks  
 (Kobe College President, Prof. Ken Ito)

Invited Lecture  
 Chairperson Prof. Hiroya Harino

1310-1350: Ecological Thinking: Key In Addressing Local and Global  
 Environmental Issues in Southeast Asia.  
 (Prof. Miguel D. Fortes, University of the Philippines)

1350-1430 : Contamination Status of Persistent Toxic Substances in the Philippine  
 Environment: A Decade in Retrospect  
 (Prof. Maricar S. Prudente, De La Salle University)

1430-1450: Coffee Break

1450-1530: Environmental Issues in the Gulf of Thailand  
 (Prof. Gullaya Wattayakorn, Chulalongkorn University)

1530-1610: Contamination status of butyltin compounds in Indonesian coastal  
 waters  
 (Prof. Ineke F M Ramegan<sup>1)</sup> and Prof. Zainal Arifin<sup>2)</sup>, 1)Sam  
 Ratulangi University, 2)Indonesian Institute of Science)

1610-1640 : Plenary Discussion  
 Chairperson Prof. Masaaki Terashima

1640: The meeting is adjourned.

2010年度 ミニシンポジウム プログラム  
 2010.10.30実施

Symposium in Kobe College  
**“Environmental Problem in ASEAN Countries”**  
 at Rigakukan (S-18), 8 December 2011

1330-1340 : Welcome Remarks (Dean of Human Sciences, Prof. Tomoji Endo)

Invited Lecture  
 Chairperson Prof. Hiroya Harino

1340-1425 : Assessment of environmental pollution and toxic effects of pollutants  
 on marine organisms in Vietnam coast  
 (Dr. Le Quang Dung, Institute of Marine Environment and Resources)

1425-1505 : Impacts of climate change on coastal areas of Thailand  
 (Prof. Gullaya Wattayakorn, Chulalongkorn University)

1505-1520 : Coffee break

1520-1605 : Bioremediation potential of seaweeds and water hyacinth  
 (Prof. Perez Teresta Ramos, Ateneo de Manila University)

1605-1630 : Plenary Discussion  
 Chairperson Prof. Masaaki Terashima

1630 : The meeting is adjourned.

2011年度 ミニシンポジウム プログラム  
 2011.12.08実施

Graduate School of Human Sciences, Kobe College  
**ESD Program Final Presentation Meeting, 2012**  
 September 7, 2012 (Tuesday)

Today's Time Table

13:00-13:10 Greeting Prof. T. Endo (Dean of Graduate School of Human Sciences)

13:10-13:40 Presentations by the ESD students  
 1) 13:10-13:25 ZAHARI, Musirrah Binti (Universiti Putra Malaysia, Malaysia/ Science in Landscape Studies)  
 “2012 in ESD: Lecture Observation, Hardship and Lesson Learn”  
 2) 13:25-13:40 MODASO, Riny Heffiani (Sam Ratulangi University, Indonesia/ Aquatic Science Study)  
 “Woman Leaders Promoting ESD Based on Local Community (One year training course)”

3) 13:40-13:55 AN, Sejin (Dukwang Women's University Korea/ Health Functional Biomaterials)  
 “ESD Program in Japan”

4) 13:55-14:10 VEDANA, Maria Salves Bacolod (Miriam College, Philippines/ International Studies in International Politics)  
 “Experiencing and Understanding Education for Sustainable Development”

5) 14:10-14:25 HO, Quyen Hong (Da Nang University of Technology, Vietnam/ Environmental Science)  
 “Woman Leaders Promoting ESD Based on Local Community”

6) 14:25-14:40 ZHOU, Dan (South China Normal University, China/ Curriculum and Instruction, Science Education)  
 “Colorful Days in Japan”

14:40-14:50 Break

14:50-15:30 Discussion, Q&A and Greeting

ESD Program Final Presentation Meeting, 2012 プログラム  
 2012.09.07実施

Graduate School of Human Sciences, Kobe College  
**ESD Program Final Presentation Meeting, 2013**  
 September 9, 2013 (Monday)

Today's Time Table

10:00-10:10 Greeting Prof. T. Endo (Dean of Graduate School of Human Sciences)

10:10-11:25 Presentations by the ESD students  
 1) 10:10-10:25 PHAN HOANG, Thu Thao (Da Nang University of Technology, Vietnam)  
 “ESD, one year action in Japan”  
 2) 10:25-10:40 Chen Lei (South China Normal University, China)  
 “A fruitful ESD learning in Kobe College”  
 3) 10:40-10:55 Long Xiaojuan (South China Normal University, China)  
 “What I had gained in ESD study”  
 4) 10:55-11:10 Merly, Senoly Lely (Sam Ratulangi University, Indonesia)  
 “Journey to understanding the concept of “ESD””  
 5) 11:10-11:25 Chavez, Mary Margaret Theresa (Miriam College, Philippines)  
 “Philippine SATOYAMA: the economics of livelihood as rooted in soil”

11:25-11:30 Break

11:30-12:00 Discussion, Q&A and Greeting

ESD Program Final Presentation Meeting, 2013 プログラム  
 2013.09.09実施



## 神戸女学院大学大学院 人間科学研究科『ヒューマンサイエンス』への投稿



名前	タイトル
Riny Hefriani Modaso (インドネシア)	Fostering global responsibility through Education for Sustainable Development in the local community
Sejin An (韓国)	Concluding ESD program in Japan
Zhou Dan (中国)	Fruitful learning journey
Maria Salves B. Vedana (フィリピン)	Understanding and experiencing Education for Sustainable Development
Musirrah Binti Zahari (マレーシア)	Journal of lesson learn in 354 days of ESD
Ho Hong Quyen (ベトナム)	After one year experience with ESD program

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科『ヒューマンサイエンス』16号への投稿(2期ESD留学生)  
(2013.04発行)



名前	タイトル
Chen Lei (中国)	Learning ESD in Japan
Long Xiaojuan (中国)	What I Gain in Study of ESD
Merly Sandy Lely (インドネシア)	Planning Now, Harvest Later: Education for Sustainable Development (ESD) Now, Better Future Later
Phan Hoang Thu Thao (ベトナム)	Learning ESD (Education for Sustainable Development) in Japan
Mary Margaret Therese B. Chavez (フィリピン)	ESD as the key to liberation: Philippines' way out

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科『ヒューマンサイエンス』17号への投稿(3期ESD留学生)  
(2014.04発行予定)

## 環境活動支援情報誌 りいふ Vol.36での紹介および報告



(2011.09発行)

## 環境リーダープログラム合同会議2013での発表ポスター

戦略的連携リーダー育成拠点形成事業17大学合同会議  
2013/09/14 (3F: 筑波大学東葉キャンパス)

**ESD girls: improving lives, sustaining the future**  
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科

**1. Overview of ESD Program and ESD girls**

Starting in autumn 2010, Kobe College offers a training program, ESD Program, for female Asian international students supported by NEXY for the Promotion of Science and Technology-building training bases of strategic environmental leaders. The program covers quite a large field, such as Environmental Science, Human Behavioral Studies, and Biotechnology and so on. The program aims cultivate ESD leaders in local communities.

**2. ESD girls study in Japan**

The activities is not only conducted inside the classrooms but also held outside fields, in Kawasumi Village or Lake Biwa Museum. Also an NPO, LEAF (Learning and Ecological Activities Foundation for Children) based in Nishiohmya City, helps us a lot. The NPO conducts environmental training with citizens.

**3. Comment**

Sustainable development is rooted in education. Through this emerging thought, it highlights the role of citizens, specifically the younger generation in defining how the future state of society will be managed. This transcends the idea that sustainable development is purely environmental as it comes through economic, politics, welfare, and health. As an interdisciplinary study with education as a tool to formation of citizens, citizens regardless of age and sex are regarded as radical networks of change who imbibe respect and discipline in the conduct of all affairs.

2013.09.14実施

## アジアの環境とその保全

## 担当講師

Angelina P. Galang/Benjamin R. de Jesus, Jr./Chen Dongmei/Chih-Ching Chien/Dantje T. Sembel/Ellen J. Kumaat/Fabian M. Dayrit/Gao Lingbiao/Gullaya Wattayakorn/Hoang Hai/Hyeon Seo Cho/Maricar S. Prudente/Miguel D. Fortes/Mohamad Pauzi Zakaria/Murad Abd. Ghani/Suwattana Thadaniti/Teresita Ramos Perez/Wan Yang/Wookeun Bae/Zeng Lixuan

## 担当教員

寺嶋 正明/武中 桂

## 日本の環境とその保全

## 担当講師

遠藤 知二/藤本 沙織/川合 眞一郎/木村 啓二/古武家 善成/小林 知博/張野 宏也/畑 明郎/的場 直樹/松尾 浩司/三宅 志穂/水谷 好裕/西田 昌司/中井 克樹/野崎 玲児/関 孝史/白石 賢二/志々 目 友博/添田 晴雄/田村 博美/寺嶋 正明/豊田 光世/山 祐嗣/山本 義和/山中 直子/山根 正慎/横田 恵子/楊 平/Mark J. Grygier/Robin J. Smith/Sunmin Kim

## 協 力

サントリープロダクツ株式会社 高砂工場/滋賀県立琵琶湖博物館/住友化学株式会社 大阪工場

## 通訳・翻訳

神戸女学院大学大学院文学研究科 通訳・翻訳コース

## 担当教員

武中 桂

## インターンシップ

## NPO法人 こども環境活動支援協会(LEAF)

片山 翠/岸本 奈都子/久世 竜/松原 暁子/長手 聖美/野口 明美/小川 雅由/小川 哲生/竹田 明子 他数名

## 協 力

アサヒビール株式会社 西宮工場/地球環境パートナーシッププラザ/コープこうべ(コープ北口食彩館)/独立行政法人 国際協力機構/外務省/阪神水道企業団/ハウス食品株式会社/兵庫県漁業協同組合/兵庫県立人と自然の博物館/伊丹市昆虫館/株式会社大栄/株式会社リボックス/株式会社リリーフ/株式会社損害保険ジャパン西宮支社/株式会社吉田製作所/賀川記念館/神原市民館/環境省/関西電力株式会社大飯発電所/キリンビアパーク神戸工場/公益財団法人 西宮市文化振興財団 フレンテ西宮/公益財団法人 西宮市文化振興財団 西宮市甲東ホール/国立教育政策研究所/丸山浄水場・貯水池/マツダ株式会社/武庫川女子大学高等部/仁川百合野町地すべり資料館/西宮プレラホール/西宮市防災・安全統括室/西宮市議会/西宮市平和資料館/西宮市貝類館/西宮市環境学習サポートセンター/西宮市環境局 環境緑化部 環境学習都市推進課(環境学習推進グループ)/西宮市健康福祉局 保健所 健康増進課(健康増進グループ)/西宮市北山緑化植物園/西宮市国際交流協会/西宮市子育て総合センター/西宮市総

合福祉センター/西宮市立中央公民館/西宮市立深津小学校/西宮市立学文殿保育所/西宮市立児童福祉施設浜脇児童館/西宮市立甲山自然環境センター/西宮市立甲子園浜自然環境センター/西宮市立郷土資料館/西宮市立春風公民館/西宮市立平木小学校/西宮市立勤労会館/西宮市立勤労青少年ホーム/西宮市立上甲子園小学校/西宮市立名塩和紙学習館/西宮市立むつみ保育園/西宮市立西宮市民ギャラリー/西宮市立総合教育センター/西宮市立社家郷山キャンプ場/西宮市西部総合処理センター/西宮市立高須保育園/西宮市立津門保育所/西宮市立津門小学校/西宮市職員会館/西宮処理場甲子園浜浄化センター/大飯原子力発電所/大阪ガス株式会社姫路ガスエネルギー館/新川排水機場

松浦 斉美/高橋 学/米口 征代/家千 晶江/吉森 順子

## 担当教員

小川 雅由/武中 桂

## フィールドワーク

## 2010年度

道の駅 上品の郷/新古里村ほたる会/たけのこ炭の子クラブ/有限会社熊谷産業

## 2011-2013年度

国頭村環境教育センターやんばる学びの森/国頭村役場/NPO法人 国頭ツーリズム協会/やんばる野生生物保護センターウフギー自然館

## 協 力

北川 真優美

## 担当教員

武中 桂

## アウトリーチ活動

遠藤 知二/張野 宏也/平川 伸明/長手 聖美/西田 昌司/小川 雅由/武中 桂/寺嶋 正明/Ahamad Bin Ismail/Alma Bernadette L. Regalado/Gao Lingbiao/Gullaya Wattayakorn/Hoang Hai/Inneke F.M. Rumengan /Le Quang Dung/Maricar S. Prudente/Miguel D. Fortes/Mohamad Pauzi Zakaria/Teresita Ramos Perez/Velma I. Grover/Zainal Arifin/1期ESD留学生/2期ESD留学生/3期ESD留学生/4期ESD留学生

## 通訳・翻訳

神戸女学院大学大学院文学研究科 通訳・翻訳コース/河本 尚子/ケリー 佳織

## 招聘教員

Chen Dongmei/Teresita Ramos Perez/Velma I. Grover

## ESD推進室

吉田 晃子/勝部 香織/石丸 陽子/熊谷 久代/榎 見奈子/神吉 さやか

(一部を除きアルファベット順、敬称略)

## あとがき

人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 教授  
環境リーダー育成プログラム委員会 委員長

遠藤 知二

このESDプログラムの内容について、同じ研究科に所属していたとはいえ、実はほとんど理解していなかったと気づいたのは、前人間科学研究科長である西田先生からプログラムの旗振り役を引継いでからでした。いや、正直にいうと、かなり理解したといえるのは引継いでからしばらく経ってからというのがより正確なところですが。引継いで半年か1年くらいは、まだ見習い状態の私には、右も左もわからない状況でした。そんな頼りないものでもプログラム自体の運営に支障がなかったのは、西田先生はじめ周囲の方たちの温かいサポートがあったからであり、またしっかりした制度設計と入念な計画が用意されていたからであることは、言うまでもありません。

実際にプログラムの運営に携わり、戦略的環境リーダー育成拠点校の集まりなどに参加するにつれて、このプログラムがかなりユニークなものであると、ようやく気づくことができました。1つは、このプログラムを通じて私たちに求められているメタレベルでの目的は、小規模な女子大でもできることがある、というロール・モデルの実現なのだということです。その他の拠点大学と同じ規模のことができるわけはありませんが、他との比較によって私たちの大学だからこそできることがあるとわかりました。それが、もう1つのユニークさ、「戦略」として地域、市民レベルに焦点をあてたことにつながっています。これは、女性環境リーダーを育成するという使命を考えたとき、とくにこれからさらに経済発展をしようとしているアジア諸国に必要な女性環境リーダーを育成するときに大きな意味をもつと思われまます。さらにいえば、本学の建学の精神とも親和性の高いアプローチになっていることを実感します。

本報告書が、このプログラムをさらに育てるための基礎となることを願ってやみません。

文部科学省「社会システム改革と研究開発の一体的推進」  
戦略的環境リーダー育成拠点形成  
「地域からESDを推進する女性環境リーダー」  
2009－2013年度 活動報告書

発行 神戸女学院大学大学院 人間科学研究科  
〒662-8505 兵庫県西宮市岡田山4-1  
<http://humangrad.kobe-c.ac.jp>

発行日 2014年3月31日

問い合わせ先 神戸女学院大学大学院 人間科学研究科  
ESD推進室  
Tel/Fax: 0798-51-8591  
e-mail: [esd@mail.kobe-c.ac.jp](mailto:esd@mail.kobe-c.ac.jp)

印刷・製本 大伸社

無断での転載・複写を禁じます。

 神戸女学院大学大学院  
Kobe College

